――アルバイト意識調査の場合――

三井大相

「意識調査の基礎と実際」と題してゼミ指導を担当してきた。在任中は、指導に追われ、その経験や活動結果について十分まとめる時間を持ち得なかった。時間的な自由が一定保障されるようになった現在、その経過を振り返るとともに、調査の結果などについて報告したい。ゼミ活動の概要について述べ、ついで一連の調査結果を報告する。

I. 意識調査ゼミの概要とアルバイト意識調査

1 意識調査ゼミの概要

(1) ゼミの目標

意識調査の基本と実際を調査の体験を通して実践的に学ぶことを課題とし、さらに以下のような下位目標を設定している。

- ①調査の専門知識と方法を身につける。
- ②取り上げた問題 (テーマ) へのデータを通した理解と考察
- ③活動を通して仕事の仕方を学ぶ。
- ④活動を通して人間的な結びつきを深める。
- ⑤主体的に学び、イベントを創出する。
- ⑥活動を通して仕事の仕方を学ぶ。

(2)活動形態

人数が多かったこともあり、班を構成して、活動の基本単位とした。各班6名から7名で4班構成する。各班はユニットとよび、それぞれのユニットにユニット・リーダーとサブ・リーダーを置く。リーダーは継続生から選ぶ。この他にゼミ全体のゼミ長が選ばれる。これはユニット・リーダーと重複する。各班は、それぞれまとまった学習集団であり、また調査に伴う諸活動の単位となる。活動の結果は「報告書」として総括される。夏季休暇中に合宿を設定する。合宿は、班ごとの課題の確認、進行状況、報告書へのまとめ、そして内容を論議する場となる。同時にゼミ全体の交流親睦の機会でもある。結果は葵祭などに自主参加してゼミ展示し、調査協力者へフィードバックをはかる。

(3) 学習形態

- ①ミニ講義 調査の基本的な事項は、ミニ講義のかたちで、プリントをもとに講義する。さらに、調査の行程、進行状況に応じてテーマを立てて学習する。これは通常前期に行われ、20分から30分位の短い講義である。
- ②演習 ミニ講義で学んだ事柄の事例や実習による確認。(例えば調査票の構成解析など)。
- ③討議 テーマ・活動計画・点検・結果の検討・報告書作成などに関わる班討議。
- ④作業 データ収集・データ処理・集計分析など主にPCを使った調査実践。
- ⑤延長ゼミ データ処理の段階になると通常のゼミ時間では時間不足になるので各班 の自主的な判断に基づいて時間延長して作業や討議を行う。これはあくまでも自主 的なもので義務ではない。そのための教室と時間はゼミとして準備する。
- ⑥報告書の作成とゼミ展示

ゼミ調査の最終結果は報告書の完成である。調査報告書は班毎に一定の形式に従ってまとめられる。調査概要、調査結果、まとめと考察、各人感想、総括表がセットになる。調査結果は、ユニットの編集で、ユニットは調査項目、結果のヘッドライン、図表、コメントを基本に作成する。ここで記載されることは、〈事実〉の記述である。事実の読み取りと論点提出、議論は〈考察〉で行い、作業を通して、また結果を通しての感想は、各人感想で述べる。

このプロセスは、通常のゼミがテーマと関わる文献を客観的に読み取り要約し、自己の感想をもとに論点を提出、論議を経て問題への認識の深化をはかるプロセスと基本的に同一である。自らが引き出した調査データが文献と対応する。

ゼミでは毎年大学祭に参加し、結果の展示を目指した。時期的に後期の中間点に位置し、短いゴールとなるので、活動を集中する働きがある。調査に協力してくれた学生たちへのフィードバックの機会であり、プレゼンテーションを学び実践する場となる。

各班の報告書を元にゼミ全体としての報告・討論の場が設定できれば最も望ましいが、報告書の完成に時間をとられ活動をそこまで発展させることができなかった。

(4) 研究テーマ

研究テーマは、調査テーマとして具体化される。学生の要求と過去の研究経過の上で設定 される。自らが関心をもち、かつ身近な問題から選ぶようにしている。

テーマ例をあげると,

経済・経営:学生アルバイト,性役割,学生生活,余暇,将来イメージ(就職後の生活), 金銭感覚,スキー・スノボード,超常現象,ファースト・フード,恋愛,コンビに,カラオケ, プリクラ,携帯電話,就職活動など。

流通マーケテイング:企業イメージ,100円ショップ,ネットショッピング,アウトレットモール,JDL(ディズニーランド),結婚など。

経済・経営ゼミと流通マーケゼミでは、その性格上、テーマにやや差がある。前者では労働など社会科学的な性格のテーマが選ばれるが、後者ではマーケテイングに関わるテーマが多く設定される。

2 アルバイト意識調査

上記テーマのうちアルバイト意識調査は、経済・経営系のゼミで、ほぼ4年の間隔で経年的に実施されてきたゼミ調査である。新規生が毎年入ってくるので、データ収集が両年にまたがることも多い。

第1回が87年から88年,第2回が91年から92年,更に96年,2000年,04年とほぼ4年置きに,過去5回実施された。集計結果にもサンプル数の違いがでてくる。学習活動でもあるので、その都度集計させている。本報告では、それぞれ88年調査,92年調査,96年調査,00年調査,04年調査と略称している。92年度はコンパクトに定型化した様式を作成し、ゼミ調査とは別に国際比較〔アメリカ・韓国〕を実施した。簡便版と国際比較版は付表として収録しておいた。

(1)調査概要

調査	調査時期	方法	対象	N	質問数
88 年調査	87 / 9 ~ 10 88 / 5	配票法+集合法	大学在学生	502	Q30 FA8
92 年調査	$91 / 9 \sim 10 92 / 5$	配票法+集合法	大学在学生	506	Q18 FA3
96 年調査	$96 / 9 \sim 10$	配票法+集合法	大学在学生	404	Q20 FA3
00 年調査	$00 / 9 \sim 10$	配票法+集合法	大学在学生	350	Q20 FA3
04 年調査	$04 / 9 \sim 10 \ 05 / 5$	配票法+集合法	大学在学生	318	Q21 FA3

^{*}調査時期は概ねである。後期の初めから開始して一旦終了し、新規生がデータ収集を経験するために翌年度補足的に追加する。集計対象となったサンプル数にも変化がある。例えば、88年調査では最初の集計は502名であるが、追加データでは661名になる。92年調査も同様で追加データを加えると、550を越える。サンプルが数が多いため、結果に現れる差は僅かとなる。以下のテーブルには、その都度、集計対象としたサンプル数を記載した。

- *Qは質問数(SQを含む) FA はフェイスシート項目。
- *配票法は友人・知人の手渡しが多い。集合法は教室などで補充的に実施。
- *大学生はゼミ生の友人など他大学も少数混じるが、殆どは本学学生。
- *社会的背景: 88年調査は有効求人倍数が激増した年で,この人手不足の傾向は90年にかけても続き,労働市場では 外国人労働者が激増する。しかし,バブル崩壊をへて92年頃から状況は一変する。93年の内定の取り消し企業の続 出は記憶に新しい。この後,日本経済は長期的な不況局面を経過することになる。96年は就職難が更に深刻化して, 「就職氷河期」とよばれた。最近になって,やっと就職状況に回復の兆しがみえ始めてきた。

(2)調査内容

各年次の調査項目の一覧表を以下に示す。

項目を大きくグループわけしてみるとアルバイト一般に関する設問群、最近就労した特定のアルバイトに関する設問群、その時々に新たに加えられた質問群、そしてフェイス項目などにまとめることができる。

表1 調查項目一覧

タイプ	88 年調査	92 年調査	96 年調査	00 年調査	04 年調査
	経験 (SA)	経験 (SA)	経験 (SA)	経験 (SA)	経験 (SA)
	内容 (OA)	内容 (OA)	内容 (OA)	内容 (OA)	内容 (OA)
一般	内容 (MA)	内容 (MA)	内容 (MA)	内容 (MA)	内容 (MA)
	頻度 (SA)	頻度 (SA)	頻度 (SA)	頻度(SA)	頻度 (SA)
	収入 (N)	収入 (N)	収入 (N)	収入 (N)	収入 (N)
	使途 (MA)	使途 (MA)	使途 (MA)	使途 (MA)	使途 (MA)
	影響度(SA)	影響度(SA)	影響度(SA)	影響度(SA)	影響度(SA)
	仕事内容(OA	仕事内容(OA	仕事内容(OA	仕事内容(OA	仕事内容(OA
	期間(N)	期間(N)	期間(N)	期間 (N)	期間(N)
特定	拘束時間(N)	拘束時間(N)	拘束時間(N)	拘束時間 (N)	拘束時間(N)
	就労時間帯(SA)	就労時間帯(SA)	就労時間帯(SA)	就労時間帯(SA)	就労時間帯(SA)
	時給 (N)	時給 (N)	時給 (N)	時給 (N)	時給 (N)
	協働就労者(MA)	協働就労者(MA)	交通費支給 (SA)	就労経路(SA)	重視項目(MA)
	コミュニケーション(S A)	アルバイト (連想)	バイト先所在地 (S A)	重視項目(MA)	インターンシップ関心(SA)
	話題(MA)	フリーター評価(SA)	労働条件変更	リストラの影響(S A)	アルバイトとの違い (OA)
	アルバイト (連想)	アルバイト観	協働就労者(MA)	就労可能性(SA)	アルバイトへの単位認定(SA
	アルバイト (文章完成)	学部・学年(N)	アルバイト (連想)	フリーター評価 (S A)	単位付与要件(MA)
単独	アルバイト評価 (SA)	性別 (SA)	重視項目(MA)	フリー他理由(OA)	フリーター評価 (SA)
	社会的役割	住居 (SA)	楽しいこと (MA)	アルバイト観	フリーター可能性 (SA)
	企業への影響 (SA)		辛いこと (MA)	学部・学年(N)	フリーター主観確率 (N)
	労働組合の有無(SA)		フリーター評価(S A)	性別 (SA)	フリーター防衛対策(MA)
	労働者意識(SA)		アルバイト観	住居(SA)	アルバイト観
	労働基準法(SA)		学部・学年(N)		学部・学年(N)
	労働基準法の遵守(SA)		性別 (SA)		性別 (SA)
	類似職種(MA)		住居 (SA)		住居 (SA)
	フリーター評価(SA)				
尺度	アルバイト観 (RS)	 * 枠組みは一	般的事項・最近のア	フレバイト・個別テー	マ・アルバイト観
			ートの各ブロックで		
	学部・学年(N)		回答 MA:複数回		
	字部・字年(N) 性別(SA)		記入 RS:評定尺		
	(SA) 住居 (SA)			⁄文。 『続項目 単独項目に	分かれる
フェイ	,,	T. BYIELD OF		2000 X H +32X X H (C	-71 W M 0.070
ス	生活費(N)				
項目	経済的補助 (SA)				
	大学進学(SA)				
	困難の克服				
	自由記入欄				

(3)報告書

結果は班ごとの報告書としてまとめられる。最初は報告書を1年間では完成できなかったが、92年以降はほぼ年度内に完成できるようになった。PCの進歩によるところが大きい。2000年以降は全体をさらに合本するかたちで保存し、次回の調査の参考資料としている。ゼミ生は、それぞれ自分の班の報告書を完成品として自己保有することになる。ゼミとして保管されている報告書は以下の通りである。

- ① 88 年調査 データ収集 87 年~88 年 報告書なし 集計結果のみ。
- ② 92 年調査 データ収集 91 年~ 92 年 報告書 7 冊 (A班~G班) 88 年調査結果 および国際比較データと合わせて作成。合本なし。
- ③ 96 年調査 データ収集 96 年 報告書 4 冊 (1 班から 4 班) 合本なし。
- ④ 00 年調査 データ収集 2000 年 報告書 4 冊 (1 班から 4 班) 合本あり。
- ⑤ 04 年調査 データ収集 04 年~ 05 年 報告書 4 冊 (1 班から 4 班 合本あり。

88年、92年段階のデータは電子化されているが、コンピュータ環境が変わり、新たには再確認できなかった。それ故、今回の報告は、基本的に上記報告書のデータをもとに再生可能なものに限り再処理をほどこして作成した。

(4)調査の特徴と制約

これら調査はゼミの教育活動の一環として行われ、またまとめられたものであって、これがそのまま日本の大学生一般のアルバイト像を明らかにするものではない。学生のアルバイト状況は、地域差が大きく、その時期・時期の社会情勢の変化の影響を受ける。大学が異なれば、また学部や学科が異なれば、従事するアルバイト内容もことなってくであろう。その意味では、今回の報告は、特定大学の、いわば定点観測的な意識調査の結果ということになる。他地区・他大学・他学部で行えば結果はこれとは異なるかもしれない。

Ⅱ. 調査結果から

1 アルバイトの実際

(1) アルバイト一般

①アルバイト経験の有無

表2にアルバイト経験率の推移を示した。アルバイト経験率は95%~97%で5回の調査を通して殆ど変化していない。アルバイト経験は、今日、大学生にとって最も一般的な経験になっている。

	1988	1992	1996	2000	2004
ある	96%	96%	96%	95%	97%
ない	4%	4%	4%	5%	3%
N	502	506	404	350	318

表2 アルバイト経験の推移

②アルバイト内容

アルバイトの内容については、従事したアルバイトを自由に記入させる自由回答方式と一

定のカテゴリーを提示して、選択させる方式を併用した。後者は多くのスペースが必要となるため、96年以降の調査では自由回答方式に統一した。具体的な仕事内容が回答されるメリットはあるものの記入の仕方が各人まちまちになり、まとめ方も難しい。班によって異なったグルーピングがされるために、分類結果を集約できない。尚、選択方式の職種分類は当時刊行されていた学生援護会の「アルバイト白書」のカテゴリーを参考にしている。

以下,選択方式による最初の2回の調査結果とその枠組みを用いて04年調査の自由回答データを今回新たにまとめた結果とを示す。

	88年	92年	04年	男性	女性
	(480)	(486)	(308)	(N=199)	(N=109)
デパート・スーパーなど販売関係	40%	43%	65%	54%	83%
喫茶店・レストランなどサービス関係	34%	48%	17%	15%	21%
配達引越しなど運輸配達関係	34%	23%	21%	28%	10%
生産工程・土木建設など現場関係	29%	21%	9%	12%	4%
ファーストフードなど外食関係	15%	14%	68%	67%	69%
一般事務・経理事務など事務関係	14%	13%	7%	3%	16%
家庭教・塾教師など教育関係	11%	15%	8%	9%	6%
スキー場・遊園地などスポーツ余暇関係	11%	9%	13%	14%	10%
駐車場・ビル管理など警備保安関係	9%	8%	5%	5%	5%
交通量調査アンケート調査など調査関係	7%	5%	0%	1%	Ο%
TV・出版・広告一般事務などマスコミ関係	5%	7%	1%	1%	1%
その他	10%	7%	6%	8%	4%
MT%	219%	213%	220%	216%	228%

表3 アルバイト内容

88年の結果では、「デパート・スーパーなどの販売関係」が40%と最も多い。「喫茶店・レストランなどのサービス関係」(34%)、「配達・引越しなど運輸配達関係」(34%)、「生産工程・土木建設など現場関係」(29%) なども、ほぼ同程度あり、主要なアルバイト領域となっている。

92年調査でも、これら 4 つのグループがメインであることは変わらない。「サービス関係」 (48%) がトップになり、「販売関係」 (43%) も増えている。これに対して「運輸配達関係」 (23%) 「現場関係」 (21%) は、それぞれ比率を下げ特定分野への集中傾向が現れ始めている。

直近の 04 年調査の回答を,同じ枠組みで整理してみた結果を表 3 に対置してある。設問形式が異なるので,厳密な比較はできないが,凡その傾向把握は可能であろう。一見して大きな変化があることがわかる。04 年の結果で最も多いのは「ファースト・フードなど外食関係」で 7 割近い(68 %)。ついで「販売関係」(65 %)でこの 2 つが突出している。「運輸配達関係」(21 %)は 92 年よりわずかに下がる程度であるが,「サービス関係」(17 %)は目だって

^{* 04} 年調査は自由回答の記入を内容分析した結果である。

低下している。アルバイト分野の変化に加え特定分野への集中が強まったといえるだろう。性別の変化をみると、男女とも「外食関係」が7割近くを占め最も多い。女性は「販売関係」が83%で男性の(54%)を大きく上回る。「サービス関係」と「事務関係」も男性より多い。逆に「運輸配達関係」や「現場関係」は少ない。同一カテゴリー内での変化も大きい。「デパート・スーパー」は、今日では「コンビニ」「スーパー」であり、外食も個人経営やファーストフードから「ファミレス」「居酒屋系」に変化している。04年に「その他」と分類した中には「派遣」と回答したものが多く含まれている。「派遣」だけではその内容はつかめない。アルバイト労働は労働市場の変貌をストレートに反映する分野である。

③頻度

表 4 はアルバイト頻度の推移をみたものである。アルバイト頻度にも傾向的な変化が読み 取れる。

「ほぼ毎日」は、88年当時は15%あった。それ以後10%程度に下がり、04年度は4%に低下した。これに変わって「週に3から4回」が回を重ねるごとに増加して、2000年には46%、04年度では54%と過半数に達している。「週に1から2回」という選択肢を加えて週レベルでみると、04年は7割を越える。ここにもアルバイト労働の、ある種の定型化傾向が現れている。

88 年調査では「休みのとき集中的に」(18%),「必要に応じて随時」(11%),「時たまやる程度」(12%) など多様な形態がみられた。しかし、そうした働き方は今日では殆ど姿を消した。

	1988	1992	1996	2000	2004
ほぼ毎日	15%	9%	10%	9%	4%
週に3~4回*	37%	41%	40%	46%	54%
週に1〜2回*		18%	18%	13%	18%
休みの時、集中的に	18%	9%	9%	6%	3%
必要に応じて随時	11%	8%	9%	7%	6%
時たまやる程度	12%	8%	8%	4%	4%
その他	7%	7%	7%	9%	8%

表4 アルバイト頻度

④収入

表5にアルバイト収入の推移を年度別・男女別に示した。

アルバイト収入の設問はかなり厄介である。非正規労働であるアルバイト労働は,就労形態が変動する。当然収入も変化する。そこで設問としては,月あたりの収入を「最大」「最小」「平均」と大別して回答を求め,それぞれ平均値と中央値を示した。

^{* 88} 年調査の選択肢は「週に何回か」。92 年以降回数提示に変更。

収入はこの間あまり変化がない。最近はむしろ低下傾向にある。「平均」のアルバイト収入は、5年間を通じてみると、男性が6万5千円、女性が5万5千円程度である。年度によって差があり、女性は男性の75%から80%程度である。

「最大」は男性 11 万 6 千円,女性 8 万 8 千円(5 年間の平均値)で男女差は拡大する。 「最小」は男性が 3 万 6 千円,女性は 3 万円となる。最大値と最小値の間にかなり大きな差が 見られる。働き方にもよるが,アルバイト労働は収入面からみても不安定な労働であること が確認できる。

レベル	年度	198	88年	199	92年	199	9 6年	200	0年	200	4年	平均	匀
	統計量	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
最大	平均	11.5	9.02	12.7	8.63	11.87	8.38	12.01	8.94	10.13	9. 18	11.64	8.83
取八	中央値	10	8.5	11	8	11	7	10	8	10	9		
最小	平均	2.23	3. 77	3. 89	1.99	4.06	2.67	4.38	3.02	3. 64	3. 57	3. 64	3.00
取小	中央値	3	2	3	2	3	2	4	3	3	3		
平均	平均	6	7. 33	6.83	4. 18	6.83	4.66	6.85	5. 27	5. 98	6.04	6. 50	5. 50
T-13	中央値	5	3.5	6	4	6	4	6	5	6	5		

表5 アルバイト収入(万円)

サンプル数

年度	198	8年	199	92年	199	6年	200	0年	200	4年
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
最大	390	48	335	118	206	143	181	139	191	103
最小	369	44	333	115	200	142	178	130	185	98
平均	355	41	344	111	191	140	175	133	173	96

⑤使途

アルバイトで得た収入の主な使途はどうか。選択肢が8項目のマルチアンサーの結果である。MTが221%から289%であるから一人平均2から3項目選択したことになる。最も多いのは「趣味・レジャー」で常に6割以上の選択がある。ついで「交際費」大体半数を超える比率で5年の平均が55%。「まとまった買い物」が3から4割,「旅行費用」が2割程度ある。「サークル費」も平均で26%と一定の比重をしめている。ただし,これらの項目にはとくに傾向的な変化はみられない。

「生活費」は88年調査が32%,その後は漸増傾向をみせている。96年以降は40%台に入り、04年には46%と半数近くにまで上昇している。アルバイト収入の主な使途は、学生生活を豊かで多様なものとする「レジャー」や「友達関係」の費用に大半が回されている。しかし、昨今は生活の基本を支える収入としての性格も強まっているとみることができよう。

	1988	1992	1996	2000	2004	平均
趣味・レジャー費	62%	68%	65%	61%	62%	64%
交際費	45%	65%	57%	57%	53%	55%
生活費	32%	37%	45%	42%	46%	40%
まとまった買い物	31%	40%	44%	30%	34%	36%
旅行費用	19%	31%	23%	19%	19%	22%
サークル費	18%	37%	26%	20%	29%	26%
学費	7%	4%	6%	6%	6%	6%
その他	7%	7%	5%	7%	8%	7%
MT%	221%	289%	271%	242%	257%	256%

表6 使途

⑥生活への影響度

ここでは、「アルバイトからの収入が途絶えたとき、あなたの生活はどうなると思いますか」 と設問して影響度を5つの選択肢から選ばせている。

「殆ど影響を受けない」は 88 年,92 年の 19 %から 5 %程度減少している。大勢は「多少不自由になる」なるで,60 %台で推移している。「学校を続けるのが困難」や「生活出来なくなる」の 2 項目は学生生活の維持に関わる。両者を合わせた数字に着目すると,17 %→ 16 %→ 20 %→ 21 %→ 23 %と漸増傾向にある。特に 04 年の数字は 4 分の 1 近い学生の生活がアルバイト収入に依存していることを示している。この結果は先のアルバイト収入の「使途」の結果とも対応している。

	1988	1992	1996	2000	2004	平均
殆ど影響をうけない	19%	19%	14%	9%	14%	15%
多少不自由になる	63%	61%	64%	67%	59%	63%
学校をつづけるのが困難	3%	2%	1%	4%	2%	2%
生活出来なくなる	14%	14%	19%	17%	21%	17%
その他	2%	4%	3%	3%	5%	3%

表7 生活への影響度

(2) 最近従事したアルバイト (特定)

以上みてきた結果は「アルバイト一般」についての設問である。労働条件などをみていくためには、さらにアルバイト内容を特定化しなくてはならない。そこで第2のグループとして「もっとも最近に経験したアルバイトについてお答え下さい」と限定して一連の質問を提示した。以下、その結果を記す。

①アルバイト内容

ここでの第1問は、「どんな仕事か」と仕事内容を自由回答で具体的に回答させる。具体的

な回答が得られるが、その記載と整理がまちまちとなり共通した枠組みでとらえるのが困難になる。そこで各班の結果を機械的に合算せず、04年のデータに限って、個人的に内容分析し、先に示した枠組みを用いて再整理した。(表 8)。

記述総数は305件である。カテゴリー別の比率と度数を最近(04)として掲げた。

この比率と同年の設問 2 のアルバイト一般の結果を合わせて示してある。アルバイト一般では複数の回答が記載されるので記入総数は 683 件になる。この設問では,回答は各人 1 件なので記入数は 308 件である。両者の相関係数を算出してみると, r=0.99 と非常に高い値を得た。アルバイト内容は設問 2 と同様である

カテゴリ	一般 (04)	最近 (04)	度数
ファーストフードなど外食関係	68%	32%	97
デパート・スーパーなど販売関係	65%	31%	94
配達引越しなど運輸配達関係	21%	5%	27
喫茶店・レストランなどサービス関係	17%	9%	19
スキー場・遊園地などスポーツ余暇関係	13%	6%	16
生産工程・土木建設など現場関係	9%	4%	14
家庭教師・塾教師など教育関係	8%	3%	13
一般事務・経理事務など事務関係	7%	5%	10
駐車場・ビル管理など警備保安関係	5%	2%	6
TV・出版・広告一般事務などマスコミ関係	1%	0%	0
交通量調査アンケート調査など調査関係	0%	0%	0
その他	6%	3%	9
総計	220%	100%	305

表8 仕事内容(最近従事した仕事)

R=0.99

②期間

最近に従事した(している)仕事の従事期間の結果を示す。従事期間は始めの2回(88年・92年)とそれ以降(96年以降)とで設問形式が変わっている。始めは従事期間を日数で回答する形をとったが、記載される日数が大きく伸びる傾向が伺えたので、96年以降ではレベル(日・週・月・年)、レベル毎に期間を数字で回答してもらう方式に改めた。このため、5回の結果を直接比較することはできないが、概算的な比較は可能である。

88年と92年の期間の日数分布をみると、88年の場合は10日以内が29%、 $1\sim2$ ケ月が18%と2つの山がある。92年になると、10日以内は27%、1から2月は15%とそれぞれ低下し、361日以上が26%と88年(13%)の2倍に増える。

平均日数でみると、88年が127.4日、92年が176.1日で50日あまりのびている。これを96

年以降の形に近似させて比率でみると、日レベルが 19%と 23% (前者が 88年) 週レベルが 27%と 13%, 月レベルが 41%と 38%, 年レベルが 13%と 28%でレベル間の移動が大き いことが確認できる。全体的には日数は多い方にシフトしている。

96 年以降はレベル間の比較になる。日レベルが目立って減少し月レベルと年レベルが増大していることがわかる。月レベルは 88 年 $(41\,\%)$ = 92 年 $(38\,\%)$ \rightarrow 96 年 $(46\,\%)$ \rightarrow 2000年 $(48\,\%)$ \rightarrow 04 年 $(15\,\%)$ で 96 年と 2000年に 45 %を越えた。04年この比率は 15 %に激減し,これに変わって年レベルが増大した。年レベルの比率は,88 年 $(13\,\%)$ \rightarrow 92 年 $(28\,\%)$ \rightarrow 96 年 $(38\,\%)$ \rightarrow 2000年 $(42\,\%)$ \rightarrow 04 年 $(71\,\%)$ と一貫して増大し,04年には,ついに 7割を越えた。週を 7日,月を 30日,年を 365日と置き換えて平均値を算出してみると,127日 \rightarrow 176日 \rightarrow $(355\,B)$ \rightarrow $(375\,B)$ \rightarrow $(491\,B)$ となる。88年から 92年と 96年以

表9 最近の仕事の継続日数

表 9-1	日数分布
10 1	一日 ダスノノゴロ

88年	92年
19%	23%
10%	4%
8%	3%
9%	6%
18%	15%
5%	7%
6%	6%
12%	10%
8%	23%
5%	3%
395	448
127. 4	176. 1
	19% 10% 8% 9% 18% 5% 6% 12% 8% 5%

平均日数は88年・92年は日数記載の平均値。

96年以降,は各レベルに記載された数値の平均を日レベルは1日,週レベルは7日,月レベルは30日,年レベルは365日として加重平均したものである。算出方法が異なるので、別枠で表示した。

表 9-2 レベル推移

レベル	日	週	月	年	平均日数
88年	19%	27%	41%	13%	127. 4
9 2年	23%	13%	38%	26%	176. 1
96年	10%	7%	46%	38%	355. 3
00年	6%	4%	48%	42%	374. 7
04年	5%	9%	15%	71%	491.1

降を区別して結果を観察してみても、この間の同一アルバイトへの従事期間は連続的に長期 化してきたことが確認できるであろう。一度入植するとそのまま同じアルバイトを長期間継 続するということであり、不正規労働であるにも関わらず準定職化して就労する傾向が強ま っているといえる。今日、アルバイト労働は特殊な不正規労働の一形態となっている。

③拘束時間

表 10 は回答された拘束時間の分布である。6 時間未満,8 時間未満,10 時間未満がメインである。いずれの年度においても,この3つのクラスが全体の $75\% \sim 87\%$ を占めている。4 時間未満の短い就労や10 時間を越える長い就労は減少傾向にある。

平均時間をみると、88年の8.9時間が最も長く、96年の7時間を境に短縮傾向を強めた。2000年の6.4時間が最低で、04年にはやや増加に転じている。毎日就労するわけでないとはいえ、まる半日がアルバイトにさかれていることになる。

	88年	92年	96年	00年	04年
2 時間未満	1%	1%	0%	1%	1%
4時間未満	8%	10%	6%	7%	4%
6 時間未満	19%	25%	27%	33%	31%
8時間未満	22%	27%	27%	28%	35%
10時間未満	35%	24%	24%	24%	21%
12時間未満	7%	7%	11%	4%	3%
14時間未満	3%	3%	1%	2%	3%
24時間未満	3%	3%	1%	1%	1%
それ以上	1%	1%	1%	0%	1%
平均	8.9	8.5	7. 0	6.4	6.6
中央値	8.0	6.5	6.0	6.0	6.0
N	448	553	360	300	281

表 10 拘束時間

④就労時間帯

何時間働くかとともにどの時間帯に働くかも重要な問題である。学生は通学し講義を受講 するのが本来だからである。

88年調査では半数弱(47%)が午前・午後型で通常の日勤勤務と同じタイプである。午後型が22%でこの二つが主要な就労型であった。最も多い午前・午後型はその後毎回比率を減じて、04年には24%と88年と比べ半減した。これに対して午後型と夜型が増えていく。夜型は92年には33%と午前午後型に並び、04年には38%と4割に迫る。96年以後はこの夜型が最も主要な就労型となっている。深夜型は88年、89年の10%からやや増えて、04年には14%と午後型(16%)に近接している。夜型と深夜型を合わせた比率に注目すると、92

年以降は4割から5割をしめる。学生アルバイトは就労時間帯からみると, 夜·深夜型が主要型とみてよい。ここでも学生アルバイトがかなり定型的な就労形態に近づきつつあることがわかる。

	88年	92年	96年	00年	04年
朝・午前型	3%	4%	5%	6%	3%
午前・午前型	47%	34%	30%	29%	24%
午後型	11%	14%	15%	17%	16%
夜型	22%	31%	34%	33%	38%
深夜型	10%	10%	13%	11%	14%
その他	6%	7%	3%	4%	5%
N	578	466	379	350	318

表 11 就労時間帯

⑤時給

学生アルバイトの多くは時給制である。5回の調査を通して時給の推移を追ってみたのが、表 12 である。表には各調査年度の時給の分布と平均値を記した。

88年の最頻値は600円から700円で29%,600円未満も19%,約半数が700円以下であ った。平均は782円。これが92年調査では一挙に995円に急上昇した。最頻値は800円~ 900 円に移行し、10 %に過ぎなかった 1000 円から 1200 円も 22 %と倍増した。この背景には 88 年の有効求人倍率の倍増やそれに続く人手不足がある。96 年にかけては,バブル経済が崩 壊し雇用の不安定化が顕在化する時期である。アルバイトの時給平均も 922 円に低下した。 時給のメインは 800 円~ 900 円で 1200 円以上の高額帯が減少した。2000 年調査は 96 年調査 の特徴がさらに鮮明化し、時給は800円~900円帯により集中した(46%)。アルバイト時 給の平均値は 904 円とさらに下落した。92 年とくらべると 100 円近い下落である。不況が長 引くとともに産業界ではリストラが進行し,失業問題が深刻化した。2000 年度のゼミ調査で は、アルバイトの見つけにくさやリストラの影響の有無を設問に加えた。「影響を感じる」と 回答した学生は2割前後あった。(男性17%,女性22%)。最も新しい04年では、時給はやや 上昇傾向にあるように見える。800 円~900 円のクラスが39 %と減少し、変わって900 円~ 1000 円が 27 %と 10 %ほど増加している。平均値は 963 円である。92 年の水準には届いてい ない。ただ、調査結果としてみる限り時給は回復基調にある。2000年調査は男女差に注目し て分析を行ったが、時給についてみると、男性の平均が931円であるのに対して女性は867 円で,女性は男性に比べ1割弱低くなっている。就労分野の違いもある。男性は女性に比べ 深夜労働に従事する割合が高いこともその理由のひとつである。

	88年	92年	96年	00年	04年
~600円未満	19%	1%	0%	0%	0%
600円~700円	29%	5%	2%	1%	0%
700円~800円	21%	14%	15%	13%	9%
800円~900円	11%	25%	40%	46%	39%
900円~1000円	3%	15%	17%	17%	27%
1000円~1200円	10%	22%	20%	17%	19%
1200円~1500円	2%	9%	4%	0%	4%
1500円~3000円	3%	9%	3%	6%	3%
3000円以上	0%	0%	1%	0%	1%
平均	781. 9	995. 2	921. 9	904. 5	963. 2
N	441	560	372	317	285

表 12 時給分布

2 アルバイト意識

前章までは主に事実的側面から学生アルバイトをみてきた。ここでは視点を意識面に移して結果をみてみる。

(1) アルバイトの評価

まず、アルバイトすること自体をどうみているか。88年と92年の調査では「アルバイトすることについてどう思うか」という設問を行っている。結果は両年とも大きな変化はない。最も多いのは「やるのも良いが限度をわきまえるべきだ」との回答で88年が48%、92年が41%である。ついで「プラス面が多い。積極的にやるべきだ」88年(36%)、92年(38%)、両者で8割を越える。マイナス面の指摘や「勉強が本分」といった否定的評価はいずれも5%以下でごく僅かである。この他「良い悪い以前にやらざるを得ない」との回答が15%程度ある。この数字は先の「生活できなくなる」と回答した比率と見合っている。アルバイトは問題もあるにせよ、一般的には肯定的に受け止められている。

(2) 就労意識

①重視項目

仕事を選ぶ際に何を重視するか。この設問は 96 年,2000 年,04 年と 3 回連続して設問した。結果を表 13 に示した。回答形式は,選択肢が 10 項目のマルチアンサー(MA)である。MT(マルチプル・トータル)が 318 %から 387 %。平均 3 乃至 4 項目,選択されている。回答で目立って多いのが「時給」である。84 %から 89 %で突出している。ついで「通勤条件」(52 %から 67 %),以下「職種」(44 %から 55 %),「労働時間」(41 %から 45 %),「時間帯」(21 %から 39 %),「人間関係」(20 %から 29 %) となる。「時間帯」は重視度が毎回下がってきている。「今後の進路」(1 %~ 3 %) や「資格要件」(1 %から 2 %) などは殆ど選

択されていない。2000年と04年の性別クロスでは、ともに1位は「時給」で性別的には全く差がない。「通勤条件」や「職種」は男性にくらべて女性がより重視する。仕事選びはまず何よりも「時給」が決め手となっている。

項目	96年	00年	04年
時給	89%	84%	86%
通勤条件	52%	53%	67%
職種	44%	51%	55%
資格要件	1%	1%	2%
時間帯	39%	24%	21%
労働時間	41%	45%	44%
就労期間	8%	18%	6%
人間関係	23%	20%	29%
今後の進路	1%	2%	3%
その他	2%	2%	0%
N	387	338	318

表 13 重視項目

88年と92年には「アルバイト連想」が調べられている。「アルバイト」という語から連想されるものを自由に記入してもらい、その結果を分析する。ここでも目だって多く記載されたのは「お金」「金」「時給」「収入」といった金銭に関係する「ことば」で「仕事」や「人間関係」「疲労」といったカテゴリーを大きく上回った。学生のアルバイト意識は「金銭的刺激」に大きく傾斜していることがわかる。

②作業感情

どんな思いで働いているか。作業感情は96年調査で取り上げた。アルバイトをしていて「楽しいこと」「嫌なこと」は何かとして、それぞれ「その他」を含む9項目からのMAである。

結果は表 14 の通りである。「楽しいこと」では、ここでも「お金が手に入る」が 91 %で群を抜いて多い。かなり差があって、次に「友達や恋人ができる」 (47%)、「知識が増える」 (44%)、以下「仕事ぶりが認められる」 (25%)、「お客に感謝される」「達成感が味わえる」 (8.8%) と続く。これらは、仲間や客など人間関係からくる喜び (47% + 18% = 65%) と仕事自体からくる喜び (44% + 25% + 18% = 87%) とまとめることもできる。仕事における達成・承認・成長は一般的に<動機付け要因>と呼ばれるもので、学生たちもアルバイトを通して仕事からの喜びを体験していることがわかる。

逆に「嫌なこと」としては「仕事がきつく疲れる」(54%),「あれこれ文句をいわれる」(39%),「賃金が安い」(31%),「お客とのトラブル」(28%),「仲間とのトラブル」(12%)

肯定感情(楽しいこと)	%	否定感情(嫌なこと)	%
お金が手に入る	91%	仕事がきつく疲れる	54%
友達や恋人ができる	47%	あれこれ文句をいわれる	39%
知識が増える	44%	賃金が安い	31%
仕事ぶりが認められる	25%	お客とのトラブル	28%
お客に感謝される	18%	仲間とのトラブル	12%
達成感が味わえる	18%	嫌なことなどない	7%
一人前と認められる	5%	約束違反がある	6%
楽しいことなどない	2%	セクハラや嫌がらせ	5%
その他	4%	その他	6%
N=385	MT=254%	N=379	MT=187%

表 14 作業感情 (96年調査)

などが主な事柄である。先に見たとおり学生アルバイトの就労時間帯は夜間が多く拘束時間 も長い。労働力として雇用される側の負の感情が多くあがっている。

③自己意識

作業感情としてみたとき、学生アルバイターのそれは、通常の従業員・労働者とは変わりがない。では、自分たちをどのような存在として意識化しているのか。88年調査と92年調査では「類似職種」という設問を行っている。選択肢9個からの選択であるが、92年度は複数回答があるので100%換算したものと合わせて示した。

主なものが 2 つある。「パートタイマー」と「フリー自由業」である。前者は 88 年が 41 %。 92 年が 35 %。後者は 88 年が 32 %, 92 年が 39 %である。88 年と 92 年で 1 位が入れ替わる。 両者合わせると 88 年 73 %, 92 年 74 %でほぼ同率である。この他では「ブルーカラー労働者」(88 年 10 %, 92 年 7 %),「臨時工・社外工」(7 %, 6 %),「派遣労働者」(6 %, 10 %),がめぼしいところである。

定期的な雇用関係にはないという点が強く意識されているが、労働者的な側面への注目はとぼしい。アルバイト労働においては、非正規であることが「フリー・自由業」というかたちで肯定的にとらえられている。

- 88年には以下のような3つの設問がある。
- *学生アルバイトが「社会に果たしている役割」について考えたことがありますか。
- *「アルバイト学生がいなかったら企業はどうなるだろうか」などと考えてみたことはありますか。
- *「アルバイト学生はもっと労働者としての意識をもつべきだ」との意見に対してどう思いますか。
- これに対する回答結果は以下の通りである。

類似職種	88年	92年	100%換算
パート	41%	48%	35%
フリー・自由業	32%	54%	39%
ブルーカラー労働者	10%	10%	7%
臨時工・社外工	7%	9%	6%
派遣労働者	6%	14%	10%
ホワイトカラー労働者	1%	1%	1%
現場主任・監督者	1%	1%	1%
幹部候補生	0%	*	*
その他	2%	2%	1%
計	100%	139%	100%

表 15 類似職種

*は選択肢を削除。

<社会的役割>

よくある (17%) 時々ある (36%) あまりない (36%) 全くない (11%)

<企業への影響>

よくある (14%) 時々ある (35%) あまりない (36%) 全くない (11%)

NA (4%)

<労働者意識>

全くその通り (11%) かなりそう思う (27%) あまりそう思わない (52%)

そう思わない(10%)

<社会的役割>と<企業への影響>については、考えたことが「ある」と「ない」はほぼ 半々である。<労働者意識>については6割強が否定している。

「類似職種」の結果と合わせて見た場合,現実としては労働者として職場に入り,その現実にふれ,またそのような仕事に従事しながらも,学生という身分に非正規の就労という条件が加わることにより労働者としての自己意識が生じにくくなるのであろう。

(3) 労働を通した学習意識

①インターン・シップ

アルバイトを通して学生たちは生の労働現実に日々触れており、多様ない経験をする。仕事を通した成長もある。しかし、企業は労働力としての学生を受け入れているのであって、教育的な配慮で受け入れているわけではない。教育的視点という意味では、近年「インターン・シップ」が注目されるようになった。就職後の早期での転職(ミスマッチ)問題を受けて、大学側と企業側の問題意識が、重なり合った結果でもある。アルバイト経験と大学教育との間のギャップを埋めていく試みとして注目したい。

アルバイト調査では、04年に初めてインターンシップの問題を取り込んでみた。その結果

を示す。

調査では、「インターンシップへの関心」の度合いとインターンシップと「アルバイトとの違い」について設問した。後者は自由回答である。

インターンシップへの関心は「非常にある」16%,「かなりある」30%。「あまりない」41%,「全くない」12%であった。

「ある」「ない」でまとめると 47 %: 53 %でほぼ拮抗する。ただし男女差が大きく、女性は「ある」59 %と 6 割近いが、男性は 40 %にとどまっている。

「アルバイトとの違い」はインターンシップの理解の程度を示す指標にもなる。

自由回答を内容分析した結果が表 19 である。記述総数は 195 件。「その他」を含めて 13 の グループにまとめてみた。量的に多いのは「責任の違い」(24 %)と「賃金がない」(21 %)である。「わからない」が 14 %,「将来につながる」が 11 %,他は 10 %以下となる。これら

表16 インターン・シップへの関心とアルバイトとの違い

	男(203)	女(114)	計(318)
非常にある	12%	24%	16%
かなりある	28%	34%	30%
あまりない	43%	36%	41%
全くない	16%	5%	12%

表 16-1 関心の有無

主 16 つ	アルバイ	トレの治い	い(自由回答)
プレ I D-フ	1 11/1/1	トとの知思し	

分類	度数	΄χ %
賃金がない	40	21%
責任の違い	46	24%
意識・意欲の違い	18	9%
将来につながる	22	11%
就職に関係する	5	3%
企業を知る	8	4%
学習・授業の一環	5	3%
経験内容に違いがある	12	6%
厳しさが違う	2	1%
目的が違う	2	1%
わからない	27	14%
その他	6	3%
違いはない	2	1%
総計	195	100%

を「賃金」「責任と意欲」「将来·就職」「学習」「経験内容」「DK」「違いがない」などにまとめ直してみると、「責任·意欲」が23%、「賃金」21%、「将来·就職」14%、「DK=わからない」が14%で全体の7割を越える。違いを「責任」や「意欲」の違いに求める回答が多いこと、「わからない」がかなりの量存在すること、本来的な目標である「将来」とのかかわりや「学習」(企業を知る・大学学習との関わり)への指摘が低率にとどまっていることなどが指摘できる。労働の世界と大学教育を交流させる試みへの理解や姿勢は、学生の意識面から見る限り、まだまだ低い段階にとどまっているといえそうである。

②アルバイト経験と単位認定

賛成 かなり賛成 何ともいえない あまり賛成できない

反対

アルバイト経験とその自発的・自覚的研究に一定の単位を付与するというのは、大学がなし うる教育的試みのひとつである。すでに先行的な経験も存在する。こうしたアイディアを学 生自身はどう受け止めるか。(04年の調査)。

「単位付与」についての賛否を問い、賛成と答えた場合にSQで付与条件をきいた。付与条件は10個の選択肢のMAである。

表 17 アルバイトと単位認定

男(203)	女 (114)	計 (318)
29%	37%	32%
17%	18%	18%
31%	31%	31%
	29% 17%	29% 37% 17% 18%

9%

5%

10%

8%

表 17-1 認定への賛否

丰	17-2	認定条件	
ऋ	17-2	一 総 ル 米 円	-

11%

9%

	男 (94)	女 (63)	計 (157)
一定期間の継続	78%	63%	72%
作業内容の研究報告	27%	22%	25%
アルバイト内容の限定	23%	21%	22%
業界研究のリポート提出	19%	27%	22%
作業日誌の提出	17%	22%	19%
進路選択との関連づけ	18%	14%	17%
販売戦略研究のリポート提出	12%	25%	17%
大学学習との関連づけ	15%	14%	15%
労働心理の考察	11%	6%	9%
MT%	220%	214%	218%

「アルバイト経験を大学の単位として認めるという考え方についてどう思いますか」

回答結果は、「賛成」32%、「かなり賛成」18%、「何ともいえない」31%、「あまり賛成できない」10%、「反対」8%となった。 賛否でみると、 賛成 5、保留 3 反対 2 の割合となり、 意見は割れているが、 賛成が半数をしめた。性別では、 賛成は男性が 46%、 女性が55%で「賛成」との回答は女性で多い。

付与条件については、「一定期間の継続」が72%で目立って多い。20%台で「作業内容の研究報告」(25%)、「業界研究のレポート提出」(22%)、10%台で「作業日誌の提出」(19%)、「進路選択との関連づけ」(17%)、「アルバイト内容の限定」(16%)、「大学学習との関連づけ」(15%)と続く。一人平均2.2個の条件が選択されている。「一定期間の継続」が多いのは、それなりの経験内容を求める必要があると理解できよう。仕事自体の研究を条件としたいとする回答が多いことに注目したい。また「進路選択」や「大学学習」との関わりも重要だとされている。この点は、アルバイトを「金銭的」要因に強く傾斜してとらえる意識状況や「将来」や「学習」との関連の弱さが指摘できる「インターン・シップ」を考えたとき、労働世界の体験を大学教育と結合するという課題にむけてひとつの示唆をあたえるものではなかろうか。性別では、男性が「一定期間の継続」を求めるのに対し、女性は「リポート提出」を条件とするとの比率が高い。

(4) フリーター問題

アルバイトを卒業後もそのまま継続すれば「フリーター」になる。かつてはその「自由」な 側面が強調され、安易さに批判的な論評が多くみられた。しかし、昨今の雇用情勢の深刻化 の中で、強いられた「自由」の側面が強く指摘されるように変わってきている。

フリーターという働き方についてはアルバイト意識調査でも早くから取り上げてきた(88年・92年・96年調査)。2000年には男女別に設問様式を変え、さらに04年には自己と関わる将来問題としてとらえる観点から、さらに細かく設問した。それぞれについての結果を紹介する。

88年から96年までの3回は、ほぼ同設問である。

「卒業してもすぐには就職しないで,アルバイトでもしながら,しばらく生活していきたい」という人がいます。あなたは,この考えをどう思いますか」とたずねて共感する度合いを回答させた。88年,92年,96年の順に各選択肢の選択率を表記すると「大いに共感する」 (3% 3% 6%)「かなり共感する」 (27% 29% 19%)「あまり共感しない」 (43% 52% 51%)「まったく共感しない」 (27% 16% 12%)「その他」 (**13%) である。「共感する」「共感しない」 でまとめると,「共感する」 (30% 32% 25%)「共感しない」 (70% 68% 63%) である。「共感する」 は人手不足が強まり,アルバイト時給が大幅に上昇した 92年に増加傾向をみせた。雇用環境が悪化した 2000年には逆に 7%減少した。「あまり共感しない」がもっとも多く 4割から 5割を占め,「まったく共感しない」を含める

と常に6割から7割である。フリーターに対しては否定的な見方が一般的であったとみることができる。96年で「共感しない」の比率がさらに減少したのは選択肢に「その他」が加わり判断への保留を可能にしたからである。この比率が13%ある。この比率を考慮して修正すると「共感しない」の比率は72%になり、7割を上回る。アルバイト労働を「フリー」「自由業」ととらえる見方はあっても、卒業後の生活として積極的な選択肢にはなっていない。

2000年調査では、96年の「その他」への回答を、考慮して設問様式に変更を加えた。当事者が男性であるか、女性であるかによって、評価が異なるのではないか、との学生の問題指摘を考慮したためである。2000年の質問様式は、先の質問に(男女別にお答えください)を加え、男性の場合、女性の場合を分けて設問した。結果を(男性 女性)として示すと「おおいに共感する」(7% 6%)、「かなり共感する」(15% 28%)「あまり共感できない」(51% 51%)「まったく共感できない」(23% 11%)「その他」(5% 4%)となった。「共感する」は(22% 34%)「共感しない」は(74% 62%)である。大勢は同傾向だが、男女によって差がでている。当事者が女性の場合は、男性にくらべて「フリーター」的な生き方への受容が強まる傾向が読み取れる。

就職氷河期といわれた時代を過ぎて「フリーター」問題は、評価の対象というより本人にとっての現実問題となってきている。04年の調査では、自己の問題としての「フリーター問題」を取り上げた。ここでは「フリーターになることについて」、自分が「フリーターになる可能性」とその「主観確率」、「フリーターにならないためにどうするか」、が設問された。

「フリーターになることについて」は、「絶対さけたい」が全体で 44 %、男性で 46 %、女性 42 %で最も多い。ついで「できれば避けた」が 35 %、男性 33 %、女性 39 %、「避けたい」の回答は全体で 79 %と 8 割に達する。「フリーターも働き方のひとつだ」として肯定的受け止めるのは 1 割程度にとどまる。

自分自身がフリーターになる可能性については、「何ともいえない」が 40 %で「ない」 32 %を上回る。「わからない」12 %をあわせると半数を超える。これは、男女別にみても同傾向である。「十分ある」9 %、「かなりある」6 %と可能性を肯定する比率は 15 %。自分の意思とは別にフリーターを余儀なくされる可能性を否定できない学生が多い。可能性があると回答した 160 名について主観確率を求めた。10 %から 50 %にかけて多く分布するが、最頻値は 41 %から 50 %で 22 %ある。中央値は 31 %から 40 %のクラスにある。量的には少ないが可能性 50 %以上と答えた学生も 2 割程度みられた。フリーターは学生にとって今や他人事ではない。

フリーターにならないために何が必要と思うか。「その他」を含めて 11 項目から自由に選択してもらった。全体では「早期の就職活動の開始」(68%)「目標の明確化」(61%) の 2 つが 6 割台,「資格の取得」(47%),「自己アピールの強化」(40%) が 4 割,「自己理解を深める」(37%)。「働くことの自覚化」(37%),「学力・専門知識の向上」(35%) が 3 割台,

表 18 フリーターへの態度

表 18-1 フリーター化

	男(203)	女(114)	計(318)
絶対さけたい	46%	42%	44%
出来ればさけたい	33%	39%	35%
やむを得ない	7%	4%	6%
一つの働き方だ	10%	9%	9%
NA	4%	7%	5%

表 18-2 可能性

	男(203)	女(114)	計(318)
十分ある	10%	7%	9%
かなりある	8%	3%	6%
何ともいえない	38%	45%	40%
ない	31%	35%	32%
分からない	13%	11%	12%

表 18-3 主観確率

主観確率	度数	比率	累積%
10%以下	21	13%	13%
11%-20%	30	19%	32%
21%~30%	25	16%	48%
31%~40%	17	11%	58%
41%~50%	35	22%	80%
51%—60%	7	4%	84%
61%~70%	6	4%	88%
71%—80%	4	3%	91%
81%~90%	6	4%	94%
91%~100%	9	6%	100%
計	160	100%	

「業界・企業研究」(26%),「インターンシップへの参加」(13%),「意識的キャリア開発」(12%)と続く。就職をひかえての当面の努力といった項目が上位にくる。将来へ向けてのより長期的な力量の形成や準備の側面は弱い。この傾向は男性よりも女性に強い。とにかく,当面,就職するという姿勢がメインといえるだろう。

性別による違いもある。「早期の就職活動開始」(男性64% 女性74%),「業界・企業研

究」(19% 27%),「インターンシップへの参加」(5% 19%) などは女性が男性を上回るが,「目標の明確化」(64% 56%)「学力・専門知識の向上」(42% 24%) は男性の比率が女性より高い。MTは全体が380%, 男性が369%, 女性が396%で一人当たり4個弱の選択となる。選択数の多いこととも対応して,選択が多様化し分散しているのも特徴といえる。

	男(174)	女 (114)	計(288)
早期の就職活動開始	64%	74%	68%
目標の明確化	64%	56%	61%
資格の取得	45%	51%	47%
自己アピールの強化	39%	42%	40%
自己理解を深める	36%	38%	37%
働くことの自覚化	35%	39%	37%
学力・専門知識の向上	42%	24%	35%
業界・企業研究	22%	32%	26%
インターンシップへの参加	6%	23%	13%
意識的キャリア開発	10%	15%	12%
その他	6%	2%	4%

表 19 防衛策

3 アルバイト観

アルバイト観はアルバイトについての見方を意見のかたちで記述し、各意見への賛否の程度を評定尺度化した選択肢(4段階)で回答させる方式で調べた。各意見があらかじめ設定した4つの領域を測定するアイテムになる。選択肢は「全くその通り」「かなりそう思う」「あまりそう思わない」「全然そう思わない」の4段階あるが、ここでは始めの2つを合わせた比率を<肯定率>と名づけ、肯定率を指標に結果を検討する。

設定した領域は「学習」「仕事の認知」「進路選択」「労働への社会的視点」の4領域である。 アルバイトへの見方が、これらの事柄とどの程度関係づけられているか、が分析テーマであ る。

表 20 は過去 5 回の調査で用いた意見の一覧である。調査票は各領域のアイテムが循環するかたちで設計されているが、この表では領域別に整理してある。〇印は、当該設問がその年の調査に盛り込まれたことを示し、×印は調査表からは除かれたことを示している。

アイテム総数は 24 個あるが,5年間を通して用いられたのは,その半分の 12 個である。 アイテム数は調査年度によって変動がある。領域的には仕事をどう見るか = 仕事認知の認知 でアイテムの出入りが多い。前回調査の結果をみながらアイテム設定を行ったためである。

アイテム	88 年	9 2 年	9 6 年	0 0 年	0 4 年	領域	設問回数
学校で学んだことが活かせる	0	0	0	0	0	学習	5
学校の勉強を補強する	0	\circ	0	0	0	学習	5
自分を鍛える良い機会だ	0	0	0	0	0	学習	5
学校の勉強の妨げになる	0	\circ	×	\times	×	学習	2
現実の労働への認識がふかまる	0	0	0	0	0	学習	5
大学での勉強や活動が制約をうける	×	\times	×	×	\circ	学習	1
特別の知識や技能を必要としない	0	0	0	0	0	仕事認知	5
決められたことだけをやればよい	0	\circ	\circ	\circ	\circ	仕事認知	5
肉体的にかなりきつい仕事である	0	\circ	×	\times	×	仕事認知	2
人間関係が広がる	0	\circ	\circ	\circ	\circ	仕事認知	5
収入を得る手段にすぎない	0	\circ	0	\circ	0	仕事認知	5
比較的高収入が期待できる	0	\times	×	\times	×	仕事認知	1
責任がなく気楽な仕事である	0	\circ	×	\times	×	仕事認知	2
自分次第の自由な仕事である	0	\circ	\circ	\times	\times	仕事認知	3
怪我や災害の保障がない	×	\circ	×	×	×	仕事認知	1
将来の職業選択に役立つ	0	0	0	0	0	進路選択	5
自立への貴重なステップである	0	\circ	\circ	\times	×	進路選択	3
キャリア開発に役立つ	0	\circ	\circ	\circ	\circ	進路選択	5
経験が将来に役立つ	×	×	\circ	\circ	\circ	進路選択	3
今後の就職活動につながる	×	×	\circ	\circ	\circ	進路選択	3
人件費の割安な労働力である	0	0	0	0	0	労働力	5

表 20 アルバイト観のアイテム一覧

(1) アルバイトと学習

アイテム数

雇用調整に好都合な労働力である

社会に果たしている役割が大きい

企業はバイトなしではやっていけない

アルバイトが単なる収入を得る手段としてとらえられ、全体的に学習と結びつける視点が 弱いことは先にもみてきた点であるが、このことをアルバイト観として確認してみよう。

 \circ

20

18

 \circ

 \bigcirc

18

 \circ

16

17

労働力

労働力

労働力

5

4

4 5 回連続

12

<学び>と関係したアイテムは6アイテムある。肯定率として高いのは「自分を鍛える良い機会だ」と「現実の労働への認識が深まる」の2アイテムで70%から90%の肯定がある。2000年以降は、80%から90%へとより肯定が増えている。これに対して、「学校で学んだことが活かせる」や「学校の勉強を補強する」という学校との関わりを示すアイテムへの肯定

アイテム(学習)	88年	92年	96年	00年	04年
学校で学んだことが活かせる	9%	11%	7%	12%	16%
学校の勉強を補強する	10%	6%	8%	12%	14%
自分を鍛える良い機会だ	73%	69%	79%	91%	89%
学校の勉強の妨げになる	34	40%	\times	\times	×
現実の労働への認識がふかまる	74	68%	69%	80%	80%
大学での勉強や活動が制約をうける	×	×	×	×	54%

表 21 アルバイトと学習

率は非常に低い。2000年調査以降、増大傾向も伺えるが、先の2項目と比べるとその差は歴然である。「学校の勉強の妨げとなる」は30%から40%で、むしろ退けられ「大学での勉強や活動が制約をうける」とした比較的マイルドなアイテムでも肯定率は半数を少し上回るにすぎない。アルバイトを通した学習は、日々大学で学んでいるはずの理論的一般的な問題把握よりも、体験そのものとそこで鍛えられる心性的なものとの関わりでとらえられている。

(2) アルバイトの仕事認知

アルバイトの仕事認知で最も多いのは「人間関係がひろがる」仕事だとの回答で、常に8割から9割の肯定率がある。販売関係や外食産業など接客的な仕事に従事するケースが多いことに加えて協働者も多様である。88年調査と92年調査では、正規の社員以外にどんな人が働いていたかを設問しているが、大学生のほかパートタイマー・高校生・大卒バイト生・高校中退生・浪人生・派遣や出向・出稼ぎ労働者・外国人労働者など様々な回答があった。労働規制が緩和された昨今では、こうした傾向はさらに促進されていると考えられる。アルバイトを通して形成される人間関係の多様さとその問題は、重要な研究テーマとなるだろう。

「収入を得る手段にすぎない」「自分次第の自由な仕事である」が5割から6割で、これに続いている。経済的インセンティブへの傾斜や「自由・フリー」とみる見方は先にみた結果を裏付けている。「特別の知識や技能を必要としない」「決められたことだけやればよい」「責任がなく気楽な仕事である」などは肯定よりも否定の傾向が強い。アルバイトとはいえ、仕事はそう簡単なものではないということであろう。

アイテム(仕事認知)	88年	92年	96年	00年	04年
特別の知識や技能を必要としない	35%	49%	52%	47%	47%
決められたことだけをやればよい	49%	46%	54%	42%	44%
肉体的にかなりきつい仕事である	55%	41%	\times	\times	X
人間関係が広がる	82%	85%	88%	90%	93%
収入を得る手段にすぎない	59%	64%	58%	51%	53%
比較的高収入が期待できる	38%	\times	\times	×	X
責任がなく気楽な仕事である	36%	36%	\times	×	X
自分次第の自由な仕事である	54%	53%	60%	×	X
怪我や災害の保障がない	×	63%	×	×	×

表 22 アルバイトの仕事認知

(3) アルバイトと進路選択

アルバイトと進路選択との関係では、表 23 に見るような 5 つのアイテムを用意した。このうち 5 回継続したのは 2 アイテムで残りの 3 アイテムは 96 年を境とした 3 回継続である。選択率が高いのは「自立への貴重なステップである」という意見で、肯定率は 63 %から 65 %。「将来の職業選択に役立つ」は 44 %から 61 %を変動している。「キャリア開発に役立つ」は、

37%から 42%で5つのアイテムの中では最も低く、否定が肯定をうわまわる。「経験が将来に役立つ」と「今後の就職活動に役立つ」の 2 アイテムは 96 年調査から導入されたが、前者は 45% → 74% → 77%,後者は 34% → 49% → 55%と回を重ねるごとに肯定率が増加している。「将来の職業選択に役立つ」も 44% → 56% → 61%と増加しているから,96年を境にアルバイトを将来と関わらせてとらえるという見方が広がりつつあるのかも知れない。全体としては各アイテムへの肯定率がやや低い領域とはいえ,注目してよい変化であろう。

アイテム(進路選択)	88年	92年	96年	00年	04年
将来の職業選択に役立つ	50%	45%	44%	56%	61%
自立への貴重なステップである	66%	66%	63%	\times	\times
キャリア開発に役立つ	42%	37%	38%	34%	46%
経験が将来に役立つ	×	\times	45%	74%	77%
今後の就職活動につながる	×	×	34%	49%	55%

表 23 アルバイトと進路選択

(4) 労働力としてのアルバイト労働

企業による正規労働者の非正規労働者への組み換えが急速に進行した結果、パートやアルバイトの増加が顕著である。コンビになどの流通産業や外食産業は、パートやアルバイトによって支えられている。アルバイト大学生がアルバイト高校生を上司的な立場で働かせるといったかたちも一般化している。しかし、ともに非正規就労者であることに変わりはない。現実の労働の世界でアルバイト労働がはたしている役割や位置は、当事者たちにどのように認識されているだろうか。4番目の領域は、このような労働力としてのアルバイト認識である。5回連続するアイテムは「人件費の割安な労働力である」「雇用調整に好都合な労働力である」の2項目である。結果は、いずれも6割から7割の肯定率である。

「社会に果たしている役割が大きい」「企業はバイトなしではやっていけない」の2アイテムは92年以降4回連続のアイテムで、経験的事実として認識できる事柄としての意見項目である。前者の肯定率は低く、否定が肯定を上回っている。社会的労働としてのアルバイト労働という視点は弱い。これに対し後者は、92年、96年、2000年、04年と回を追うごとに肯

アイテム(社会的労働)	88年	92年	96年	00年	04年
人件費の割安な労働力である	78%	62%	65%	63%	64%
雇用調整に好都合な労働力である	71%	66%	65%	69%	71%
社会に果たしている役割が大きい	×	37%	37%	49%	47%
企業はバイトなしではやっていけない	×	58%	61%	65%	75%

表 24 労働力としてのアルバイト認識

定率が高くなり、04年には75%に達した。企業とアルバイト労働との関係がよりリアルに 把握されてきたといえよう。

(5) 国際比較から

ゼミ調査とは別に88年調査をもとに定型的な短縮版(日本語版・英語版・韓国語版)を作成し、国際比較を試みた。学生の置かれた社会的条件が異なり、設問の共通性も十分とはいえないが、彼我の特徴を知る参考データとして紹介したい。

英語版は、92年6月に本学で行われた国際シンポジウムにむけて提携校(Pace 大学)の協力を得て92年5月に実施し、ハングル版は、私が個人的に訪れた韓国外国語大学の学生を対象に91年9月に実施した。(用いた調査票は付表参照)ここで紹介する結果は、サンプル数は前者が167名、後者が103名である。(シンポジウムで発表したアメリカのサンプルはもっと多かった。ただファイル形式が古く、今回再確認できなかったので、手元の資料の結果を示す。値は殆ど変わらない)日本版のデータは、91年から92年にかけて実施した92年調査である。

学習の領域は5アイテムある。日米間で大きな差がでている。「学校で学んだことが活かせる」への肯定率は、日本は11%に過ぎないが、韓国は39%、アメリカは79%である。同様に「学校の勉強を補強する」は日本6%、韓国8%。これに対して、アメリカは60%の肯定率がある。「自分を鍛える良い機会だ」「学校の勉強の妨げになる」「現実の労働への認識が深まる」では差が縮まるものの依然としてかなり格差がある。各アイテムへの肯定率は、アメリカが最も高く、ついで韓国、日本の順になる。アメリカの学生はアルバイトと学習との関係をより積極的にとらえていることがわかる。

仕事の認知 6 アイテムある。日米の差がひらく項目に注目すると、最も差が開いているのは、「自分次第の自由な仕事である」(日本 53 %, アメリカ 23 %, 韓国 68 %), ついで「収入を得る手段に過ぎない」(日本 40 %, アメリカ 12 %, 韓国 33 %), 「特別の知識や技能を必要としない」(日本 49 %, アメリカ 27 %, 韓国 45 %) の2 アイテムである。「人間関係が広がる」(日本 85 %, アメリカ 90 %, 韓国 75 %)「肉体的にかなりきつい仕事である」(日本 41 %, アメリカ 48 %), 韓国 54 %)「責任がなく気楽な仕事である」(日本 36 %, アメリカ 36 %, 韓国 14 %) などは差が 10 %以下となる。肯定・否定の傾向は類似しているが、アメリカの学生は仕事のとらえ方が、日本の学生よりも積極的である。

アルバイト労働と進路との係わりは3アイテムだが、<学習>同様差が開く。「キャリア開発に役立つ」(日本37%、アメリカ82%、韓国48%)、「将来の職業選択に役立つ」(日本45%、アメリカ85%、韓国38%)、「自立への貴重なステップである」(日本66%、アメリカ91%、韓国77%)となる。「自立へのステップ」に関しては日本も肯定率が半数を超えているが、他の2アイテムでは日本は、否定率が肯定率を上回る。他方、アメリカは8割以上がこの意見を肯定している。アメリカの学生は、アルバイトは進路選択と深く関係するとと

らえている。韓国は日本とアメリカの中間に位置する。

アルバイト労働の社会的側面についてのアイテムは4アイテムある。日本とアメリカで肯定・否定が逆転する項目が2項目ある。「人件費の割安な労働力である」は日本では肯定率が62%である。アメリカでは32%にとどまる。逆に「社会に果たしている役割が大きい」は日本では37%と肯定を否定が上回る。アメリカは78%で8割近くが肯定している。「雇用調整に好都合な労働力である」は日本66%、アメリカ90%で、ともに肯定が否定を上回る。しかし、日本の肯定率が3分の2程度であるのに対し、アメリカの肯定率は9割に達する。「企業はバイトなしではやっていけない」は、アメリカ版は「バイトは企業にとって重要な労働源である」でやや表現が異なる。肯定率は日本肯定率65%、アメリカ84%である。アメリカの学生はアルバイト労働の果たしている役割を高く評価している。この項目への韓国データは肯定率が12%で目だって低い。

勿論,これらの結果を単純に比較するわけにはいかないであろう。従事する仕事内容や大学での専攻とも関係するからである。そこで、手元の原票をもとに対象となったアメリカ学生のアルバイト内容と対象者の属性をまとめてみた。(表 26)

表 25 国際比較

領	アイテム	日本 (506)	米国(167)	韓国(103)
域) 1 / A	92 年調査	1992年	1991年
	学校で学んだことが活かせる	11%	79%	39%
	学校の勉強を補強する	6%	60%	8%
学習	自分を鍛える良い機会だ	69%	96%	87%
	学校の勉強の妨げになる	40%	63%	41%
	現実の労働への認識がふかまる	68%	75%	68%
	特別の知識や技能を必要としない	49%	27%	45%
仕	肉体的にかなりきつい仕事である	41%	48%	54%
事	人間関係が広がる	85%	95%	75%
認	収入を得る手段にすぎない	40%	12%	33%
知	責任がなく気楽な仕事である	36%	36%	14%
	自分次第の自由な仕事である	53%	23%	68%
進	将来の職業選択に役立つ	45%	85%	38%
進路選	自立への貴重なステップである	66%	91%	77%
択	キャリア開発に役立つ	37%	82%	48%
	人件費の割安な労働力である	62%	32%	56%
労	雇用調整に好都合な労働力である	66%	90%	31%
働	社会に果たしている役割が大きい	37%	78%	30%
	企業はバイトなしではやっていけない	65%	84%	12%

表 26 従事アルバイト (アメリカ)

グループ	仕事内容	例示	度数	%
	事務関係(オフィス)	オフィスワーク・出納係	33	
+	専門業務補助(アシスタント)	会計·法律事務補助	9	
事務	接客業務	ホテルフロント	6	37%
155	住宅事務	レジデント・アシスタント	4	
	秘書	セクレタリー	6	
	対人サービス	ウエイトレス・ウエイター	15	
サ	キャッシャー・レジ	キャッシャー	11	
1	セールス関係	セールスマン・店員	10	48%
ビス	飲食関係	コック・バーテンダー	8	
^`	スポーツ・レジャー	テニスコーチ・ゴルフ場	4	
±z/a	教育関係	家庭教師・教師	9	
教育	図書館関係	ライブラリーアシスト	8	16%
F	介護・保育関係	ベビーシッター・デイケア	8	
技	コンピュータ関係	オペレーレータ・プログラマ	7	8%
術	技術関係	電気工・電気技師	5	070
現	現場関係	工場労働・農場	10	8%
場	配達関係	配達・トラックドライバ	2	070

学年構成:1年 0% 2年 3% 3年 57% 4年40%。

性別構成:男性 55% 女性 45%。

学生所属:フルタイム 81% パートタイム 19%。

平均年齢: 22.5 歳 σ = 3.66。

専攻:ビジネス管理系 60% 教育系 20% その他 20%。

アルバイト内容は判読不明のものや仕事内容がわからないものがかなりあるので参考にと どまる。特長として、日本とくらべると事務作業に従事する割合が高い。教育系の仕事に従 事する比率も多く、就労内容にも違いが予想される。専攻はビジネス系が大半を(60%)占 め、教育系(20%)がこれにつづく。学年は、3年、4年が殆どで、性別構成は男性がやや 多い。フルタイムの学生が8割、2割は職業生活がメインの学生である。これら条件の違い が上記の結果に反映していると考えられる。しかし、結果に現れた差はやはり顕著である。

4 まとめ

本報告では、意識調査ゼミの概要を紹介した後(パートI)、ゼミ調査から過去ほぼ4年間隔で実施してきたアルバイト意識調査をとりあげ、その結果を紹介した。(パートII)。保存していた原票は退職の際に廃棄してしまったこととコンピュータ環境がこの間大きく変化したこともあって電子化されたデータも88年調査と92年調査については今回、再処理できなかった部分が多くある。それらについては、やむなく当時の、複数の報告書をもとに結果をレビューすることとなった。その点では不十分なレビューとなった。

本報告 Ⅱの1章と2章は主として事実データによる経年的変化をみている。3章ではアルバイト意識に関するテーマを取り上げ、4章では評定尺度的に構成した設問群でアルバイト観を検討した。主な結果は以下の通りである。

(1) アルバイト (一般)

アルバイト一般では、アルバイト経験、アルバイト内容、頻度、収入、使途、生活への影響度などを取り上げた。

アルバイト経験率は、過去 5 回の調査を通して 95 %から 97 %で殆ど変化がない。今日の 学生にとって最も一般的な経験になっている。

仕事内容は、88年調査では、デパート・スーパーなどの販売関係、喫茶店・レストランなどのサービス関係、配達・引越しなどの運輸配達関係などがメインであり、そのこと自体は変わりはないが、その後、ファースト・フードなどの外食関係が大きく増大し、最近では販売関係ととともに最も主要な就労分野となっている。特定分野への集中傾向が顕著である。同一分野内でも業態の変化によってデパート・スーパーからコンビに・スーパーへ、外食も個人経営・ファーストフードからファミレスや居酒屋系へと変化している。派遣が新たに登場するなど就労構造の変化をストレートに反映している。

アルバイト頻度にも変化があり、「週3回から4回」が回を重ねる毎に増加し、アルバイト 労働の定型化傾向が現れている。

アルバイト収入は月平均でみると、男性 6 万 5 千円、女性 5 万 5 千円である。人手不足が深刻化した 92 年に大きく上昇したが、その後はむしろ下降傾向をしめした。最近は若干回復基調にある。「最大」「最小」収入の変動も大きく、収入的には不安定な労働である。

アルバイト収入の使途は、「趣味・レジャー」が常にトップで6割以上をしめる。「生活費」 に回る比率も次第に漸増し、96年以降は4割から5割に達している。

アルバイトが無くなっても、「多少不自由になる」程度との回答が大勢である。アルバイトが無くなると生活に大きな支障がでるとの回答は漸増傾向にあり、最も新しい 04 年調査では、ほぼ 4 人に 1 人である。

(2) アルバイト (特定)

アルバイト労働の労働条件は,就労先を限定しなければ把握できない。「最近従事した仕事」 と具体的に限定して労働実態を調べた。ここでは,アルバイト内容,従事期間,拘束時間, 就労時間帯,時給などについて報告した。

04年調査についてアルバイト一般として記載された結果の内容分析(複数回答)と最近従事したアルバイト(単数回答)を独自に分析し結果を比較した。両者には非常に高い相関が得られた。アルバイト内容はアルバイト一般に準じて考えて良い。従事期間は5回の調査を通して連続的な長期化傾向が確認できた。非正規労働であるにも拘わらず準定職化しつつある。アルバイト労働は特殊な不正規労働の一形態となっている。

拘束時間は、88年当初の8.9時間(平均)が最も長かった。不況局面が顕著となった96年 以降、短縮傾向を強め、00年は6.4時間にまで下がった。04年は再び増加に転じている。毎 日就労するわけではないが、学生生活の大きな部分がアルバイト労働にふりむけられている。 就労時間帯も変化している。88年は午前・午後型が最も多くみられたが、次第に減少して午 後型と夜型が増えていく。96年以降はこの夜型に深夜型が加わり、夜・深夜型が最も主要な 就労型となった。学生アルバイトは、夜・深夜型というひとつの定型に近づきつつある。

時給は92年調査で急上昇し、88年を200円あまり上回る995円(平均)に達した。その後はむしろ下落した。最終の04年では回復傾向を示しているものの、92年レベルにはまだ達していない。800円から900円帯に集中してきている。男女差があり、女性は男性より1割弱低い。ここには就労時間帯の男女差も影響している。

(3) アルバイト意識

アルバイトの意識面に注目してアルバイトすることの評価,就労意識,労働を通しての学 習意識,フリーターへの態度などについて取り上げた。

アルバイトすることについては、肯定的な評価が一般的で、マイナス面の指摘や大学での 学習を重視する立場はごく僅かである。「やらざるを得ない」との回答も1割を越える。経年 的な変化はない。

就労意識ではアルバイトを選ぶ際の「重視項目」と「作業感情」「自己意識」を紹介した。 重視項目としては「時給」が突出している。アルバイトから連想する「ことば」を分析して も「お金」や「時給」が多くあがってくる。学生のアルバイト意識は金銭的側面に大きく傾斜 している。作業感情でも,嬉しいことの第一は金銭収入であるが,仕事を通しての成長や達 成感,アルバイト先で経験する人間関係からくる喜びなども多く体験している。嫌なことは, 作業負担の厳しさと疲労である。これらの作業感情は通常の従業員・労働者と変わりがない。 しかし,非正規労働が「自由業」や「フリー」と意識され,労働者的な側面への意識化は乏 しい。

学習との関わりでは「インターン・シップ」と教育活動に取り込む「単位化」について調べた。インターンシップについては半数程度が関心を持っているが、アルバイトとの違いは明確ではない。賃金面や責任の違いなどへの言及が多く、教育的側面や進路選択との関わりの指摘は低率にとどまる。「単位化」に対しては、賛成、保留、反対が5:3:2と分かれている。ただ、「単位化」の条件では、一定期間の継続と仕事自体の研究を重要とする声がみられ、アルバイト労働の金銭的傾斜を乗り越える可能性が読み取れる。

フリーター的働き方については、共感できないとする態度が一般的である。また「絶対さけたい」との声も強い。自らがフリーター化する不安も大きく、半数はその可能性を否定できないでいる。その対応については、当面する就職活動への対応といった傾向が強く、より長期的な力量の形成や準備の側面は弱い。

(4) アルバイト観

学習,仕事認知,進路選択,労働力としてのアルバイト認知など4つの領域についての意見を提示し、各意見への肯定率を指標にアルバイト観を調べた。参考データとして92年にゼミ調査とは別個に実施した国際比較の結果を紹介した。

アルバイトを通した学習は、大学での学習と関連づけられず、体験そのものとそこで鍛えられる心性的なものに結合されている。

仕事認知では、「人間関係」のひろがりへの肯定が最も多く、経済的刺激への傾斜や自由・ フリーの肯定など、先にみた結果を、改めて確認させる結果となった。

進路選択では「自立への貴重なステップ」とする意見への肯定率が高い。「キャリア開発」との関わりについては、肯定よりも否定する見方が強い。ただ、就職活動との関わりや将来の職業選択に役立つとする意見への肯定率は、96年を境に増加している。緩やかではあるが変化が兆している領域である。

労働力としてのアルバイト認識では「人件費が割安」「雇用調整に好都合」という企業サイド的な性格への認識は強い。アルバイトが果たしている「社会的役割」については否定が肯定を上回る。しかし、企業がアルバイトなしではやっていけないとの意見への肯定率は、回を重ねるごとに上昇し、04年には4分の3に達した。企業とアルバイト労働の関係については、リアルな把握がひろがってきている。

国際比較は、日本学生とアメリカ学生との差を顕著に示すものとなった。この違いはアルバイトと大学学習との関係、将来の進路選択の領域で特に著しい。仕事内容の把握においてもアメリカの学生は日本の学生よりも積極的である。従事する仕事の違いや大学での学習内容とも関係するであろうが、ひとつの問題提起となりえよう。

Ⅲ. 学生のアルバイト経験と教育的課題

過去5回の調査結果からもわかるように、アルバイト経験は本学の学生にとって最も一般的で身近な労働体験のひとつである。学生たちは、アルバイトを通して現実の労働の世界に触れ、大学以外の多様な人間関係を形成している。学生たちのアルバイト労働には、時給や収入、あるいは就業分野など、その時々の経済社会の状態がストレートに反映している。学生たちは、アルバイトに多くの時間を割いている。しかも準定職化することによって、それらはかなり先まで予約済みの時間である。ゼミ行事やゼミ合宿がすでに定められたシフトの都合などによって支障をきたすことは、教員がしばしば経験することである。かれらの従事している労働は、最も今日的な、拡大しつつある就労形態の労働である。派遣で働く学生が増えている。アルバイトを通して、かれらは、ある種日本の最先端の労働を体験しつつあるといえるだろう。

しかしながら一方,調査結果が示すように,かれらの関心は,こうした事態には向かわず,もっぱら金銭的なものにだけ向かっている。大学の学習とは,断絶しており,むしろ関係を否定する回答が多くをしめる。また将来的な課題とも切れている。自覚される学習は,直接的な経験の範囲にとどまり,そこで鍛えられる根性的なものにとどまる。「自分を鍛える絶好の機会だ」ととらえても,その方向は定かではない。アルバイト意識の国際比較にみられた差は大きい。従事するアルバイト内容,大学で学んでいる科目,移し変えられる調査票の文言の是非を,勘案したとしても,意識の違いを読み取ることは可能であろう。

アルバイト経験を現実世界の一般的な労働体験のひとつと考えてとき、ここに一つの教育的な課題があると考える。学生たちが大学の講義や学習と関係がないと考えるのは何故か。学生たちが直接経験する労働の世界と大学で学び、知識として与えられている内容との距離が大きすぎるのもひとつの理由であろう。大学の役割は、そのようなところにはないという考え方もあり、それを否定するものではないが、今日のように大衆化され、ごく普通の家庭の子弟、子女が数多く進学してくる今日では、大学が果たすべき役割もまた自ずから違いがでてくる。大学で知識として学んでいることが現実とのかかわりの中で活きた知識として機能しえない。そういう問題として、この事態をとらえたいと考える。

学生たちの側に自然発生的に、問題意識が成長してくるのを期待するのは、困難に思える。 アルバイト労働の意識化には、大学の講義と学生が経験し、また関心も高いアルバイト労働 との間に、一つの中間項を設定していく必要があるのではなかろうか。具体的には、アルバイト労働をひとつの教材ととらえて、教授する側から働きかける仕組みを考えてみるという ことである。

講義の中で例示する、あるいは指摘して意識化させる、リポートテーマと関連付けて考えさせる、もっと積極的にゼミテーマをアルバイトと関わらせたテーマとして提起するなどは、その例である。本学にあっても、こうしたタイプのテーマを掲げたゼミには多くの学生が希望する傾向がみられる。アルバイトを研究してみたいとする要求は存在している。

更に進めば卒論のテーマとも関係づけることができるし、近年関心と広がりをみせている インターンシップ科目は、アルバイト研究と非常に近い位置にある。将来との関係では、本 学で開かれているキャリアサポートなどもアルバイトと積極的に関連付けることが可能な領 域である。

アルバイト労働を自覚化させる試みとしては、まずアルバイト労働自体の研究がある。日本では実態はともかく、高校まではアルバイトは「原則禁止」である。アルバイトがもたらすと予想される様々な否定的側面への教育的配慮と私生活への干渉可能性の問題があるからである。そのため、アルバイト自体を教材化することは表立っては困難なのである。高校生は高校教育とは、切れたところでアルバイトに従事している。しかし、学生を自立した大人とみる大学では事態は大きく異なる。アルバイト労働自体を研究することには、教育的にも

積極的な意味がある。

アルバイト自体の研究には、アルバイトの正確な把握とより総合的な視点からのアプローチが必要である。アルバイトは学生たちには、時給・賃金としてのみ意識されることが多い。これは、もっと広く「労働条件」としてとらえる必要がある。ゼミ調査では労働時間、就労時間帯、通勤条件、超過勤務の有無なども設問しているが、就労にあたっての事前の教育訓練やワークロード、災害時の保障なども視野に入れる必要がある。時給や賃金をこうした労働条件との関係の中で考える視点が重要である。

販売であれば、商品が売れた場面だけでなく、売り手側の背景や働きかけと買い手側の条件と対応との関係でみていくことが求められる。外食産業でも作り手と顧客の関係を視野に 入れてとらえる必要がある。

作業については、基本作業と付属的な作業、中心的な作業と周辺的な作業の区別がある。 作業の仕組み、予定と実際、作業や業績の変動(日・週・月・季節)、トレンドも研究テーマ になるだろう。作業管理のあり方や肯定的・否定的な作業感情の自己観察も働く人の意識を理 解する上で大切なポイントとなる。

どのような仕事であれ、分業と協業で成り立っているから、そこに人同士の関係がでてくる。同僚、上司、大学生だと高校生の部下がつくことが多いから、部下との関係もでてくる。販売や外食産業では顧客との関係も重要である。アルバイト労働をより総合的な視点からとらえ返せば、今までみえなかった、様々な問題点が見えてくるであろう。こうした問題意識と研究はひとつの店舗から、店舗間の競争と共存、さらに業界研究へと広げることが可能である。

アルバイトを研究することが、さらにアルバイトを通しての社会認識、背後の社会や経済の問題の認識へと深化していけば、それは大学でかれらが学習していることに結びついていく筈である。大学教育との乖離が、そのことによって埋められていく。

アルバイトは学生にとっても活きた教材になりうる。またアルバイト経験は将来の進路選択にとっても重要な経験となりえるであろう。

労働経験の教材化として現実に展開しているものにインターン・シップがある。

インターン・シップは「学生が一定期間企業等の中で研修生として働き,自分の将来に関連のある就職体験を行える制度」を意味する。就職後の転職,ミスマッチの対策として社会的に注目され,国の積極的なバックアップもあって,多くの大学で実施されるようになっている。医学研修生の病院での研修,理容師や美容師の現場実習の制度としては過去も存在したし,教員養成における教育実習制度なども、特定の職業資格取得の条件として行われている。これらは一種のインターンシップといえるだろう。

しかし、文系や社会科学系の、将来の就職体験を目的とした試みは新しいものである。本 学でも流通マーケテイング学科では、単位科目になっている。2005年からは地域インターン シップのコンセプトのもと自由選択科目として正式に科目設定された。

アルバイトと異なるのは、明確に教育活動として位置づけられていることにある。大学での事前教育とガイダンス、企業側の受入れ体制など、まだ形成途上ということもあって、研究の余地は多々あるが、将来の進路選択、労働体験と関わる教育活動として重要である。

受入れ企業がまだ少数に限られていることや大学側が研修先を決めるので、学生の希望に十分添えないなど制度面の問題もある。学生側の問題としては、「関心あり」が半数程度であるなど、関心が必ずしも十分でないこと、関心を持ち参加する場合でも将来にむけての就職経験というより当面の就職活動に備えた<資格取得>のひとつと考えるなどの弱点も見受けられる。しかし、最大の問題点は、アルバイトとの区別が曖昧な点である。調査では、「わからない」という回答が多くみられた。また違いを指摘する場合でも、無償であるとか、責任の軽重といった回答が多く、本来的な職業生活への導入教育的側面や進路選択との関連にふれるものは少ない。これは、学生のアルバイト観が金銭的な側面に大きく傾斜していることと無関係ではない。インターンシップでは、アルバイトとの違いをまず指摘しておかなくてはならない。

大学側が教育活動として構想しているという点でインターシップは貴重であるが、独立した教科として展開されることが多く、講義科目との関連性はあまり意識されていないようにみえる。アルバイトの教育的課題は、アルバイト経験を教材としてとらえ、積極的に講義との架橋をめざす。この点でインターンシップとは区別されるだろう。また、アルバイト経験の学習は、自主的研究的なものである。アルバイト先では決して十分には準備されることのない教育条件のもとで、学習しなければならない。

しかし、それ故に、自ら進路選択と関わるようなアルバイト先を意識的に選択する可能性をひらく。同じコンビニで働く場合でも、意識的に異なったコンビで経験をつみ、違いを確かめるなどはその一例である。アルバイト労働は、学校側があるいは企業側が準備できない分野での労働経験を可能にする。インターンシップがカヴァーできない部分を補うことができる。

アルバイトやボランティア活動を専門科目の単位として認める試みは、すでに存在する。信州大学経済学部は92年のカリキュラム改革で、経済・経営の理論を学ぶ中心科目と並んで「産業社会特別演習」「現代社会論特別実習」などの科目を設け、アルバイトやボランテイア活動の単位認定を行っている。これらは自主的に学ばせようとする教育改革の一環である。「コンビニのバイトでも、在庫管理の方法を知る、など目的がはっきりしていれば、後はリポートで判定する」とされている。(92・2・3 朝日新聞)。

この報道に対し、読者からの反響が寄せられた。少し長くなるが引用すると、信州大学の 新カリキュラムを歓迎すべきこととした上で、「私が十年前、アメリカの大学に国費留学した とき、同様のカリキュラムがあり、経済学部はもちろん、他の学部にも適用されていた。私

は、障害児のためのプレスクール(幼稚園入学前のプレスクール)で一学期間、週3回無償で働いた。学期末にプレスクール側から具体的な評価を書いてもらい、それをリポートに添えて大学の指導教官に提出し、心理学の単位を認定された。卒業後、養護学校教員となった際に、この経験がどれほど役立ったかはかりしれないものがあった。

学生たちが、希望すれば、ボランテイアとして受け入れた側の評価を成績証明書に付けてもらえるので就職活動の際に、どのようなキャリアを積んできたかを証明することができる。そのため学生たちは、たんなるアルバイトとしてなく、将来へ結びつくものとして働く業種を選ぶのにも真剣であった。信州大は『業種は問わない』としているが、アルバイトやボランティア活動は、学生の単位取得の救済策ではなく、あくまで専門性と連結する内容が肝心であると思える」(仙台市 庭野 賀津子 92・2・13 朝日新聞)。

内容的には、インターンシップに近い方式と思えるが、単位認定と関わらせることで、大学の学習との関係、就職活動、進路選択との関係を意識化させるという指摘は重要である。 先にみた国際比較の落差には、こうした教育側の違いもあると思われる。

アルバイト意識調査でも、単位認定への学生たちの意見を調べたが、すでにみたように「賛成」は半数で、「反対」2割以下であった。認定条件として「一定時間の継続」をトップに「作業内容の研究報告」「アルバイト内容の限定」「業界研究リポート」「作業日誌の提出」「進路選択との関連付け」「販売戦略研究」「大学学習との関連付け」などいずれの項目にも2割前後の選択があり、意見の多面性が伺われた。アルバイト経験を大学における単位認定と関連付けることは、学生たちのアルバイト意識を、アルバイト労働の自覚化へ促す有効な手段となりえるだろう。

しかし、そのためには、目的を明確にしたリポート提出だけでは不十分かもしれない。学生たちの労働体験を丁寧に聞き取り、おかれた条件についての正確な理解を深めながら、可能な教育的指導の可能性と労働体験を教育的に包み込む「枠組み」を追及・準備していく必要があるだろう。

そうした努力は教員自身が、自らの教育活動を見直す契機にもなるだろう。

学生が、アルバイト労働を主体的に研究することは、かれら自身が大学で学ぶことを再認識し、更に「大学時代とは何か」を改めて問い返すことにもつながると考える。

むすび

学生アルバイトの調査報告書をまとめていて、自分の学生時代のことを何度か思い出した。 学生時代、私も自活のためのアルバイトに明け暮れた。最も長かったのは、当時ひとつの定 番であった家庭教師だったが、家庭教師(週2回 2千5百円)は後払いなので、当初は当 日払いのアルバイトをやらざるを得なかった。仕事としては、引越しや大掃除の手伝い、徹 夜のデパートの飾りつけなどがあった。著名な母校の教授のお宅に伺ったこともあるし(先生は自校の学生のために仕事を提供して下さったのであろう),都会での4年間の学生生活を終えて帰郷する女子学生の荷造りを手伝ったこともある。本の整理が主な仕事で芸術関係の雑誌が沢山あった。「これから,東京ですか。楽しみですね……」と小さく呟くようにいいながら本の選別をしていた。私は彼女から,そのとき「ヘルマン・ヘッセ著作集」(人文書院刊)を貰った。紙はすっかり色あせているが,それらは今も手元にある。様々なお宅にお邪魔したが,すべてもの珍しく,地方出身の私には,都会の暮らしや家庭に触れる貴重な機会でもあった。アルバイトの斡旋は,大学の学生課付のアルバイト委員会で担当の学生委員たちが行っていたが,数が限られていたので,なかなか紹介してもらえなかった。何回かいくうちに,九段の学徒援護会へ行ってみてはどうか,といわれ,そちらへも出かけた。アルバイトを求めて様々な大学から多くの学生が訪れ長,長い行列ができていた。いずこもアルバイト難だった。「ヒマラヤ杉が見た日々一学生アルバイト戦後史物語—」(岩波甲三 かのう書房昭和63年)を読むと,その当時のことがよみがえってくる。

いくつかかけもちで、家庭教師をやっていたが、家庭教師は往復に多くの時間がとられる。教える時間は正味 2 時間だが、往復の交通、それに食事などだされると、 $4\sim5$ 時間は覚悟しなければならない。単価は安いが寮の自室に近所の子どもたちを集めて教えた方が時間的には効率的なので専門課程に移ってからはやり方を変えた。子ども同士の教え合いを援助するのも、子どもたちの学習にとって、効果があると気づいたのもその時である。ゼミにおける学生たちの教育力も同じであろう。

子どもの学習に家庭教師的な学習形態が一般の家庭にも広がり始めた頃で需要は多かった。 私はやらなかったが、部屋が手狭になると、外に場所を借りて、何人かで共同で教えるというかたちがでてくる。卒業しても、あえて就職せずこの仕事を続けると、それは創生期の学習塾になる。細かく調べてみたわけではないが、今日、広く展開している学習塾の創立は、この時期に多いように思う。

今回の調査データでは、塾教師はごく少数あるが、家庭教師は全く見当たらなかった。大学による差もあるかもしれないが、学習指導が教育産業の一部門として専門化し高度に技術化した今日では、学生による家庭教師のレベルでは、もはや要求に対応できなくなっているのであろう。

調査をまとめる中で、改めて多くの方々の援助をうけたことに気づかされた。国際比較では、本学教授であられた竹内一夫先生にお世話になり、Pace 大学の James S. Gould 教授からは、英文設問の点検やアメリカでのデータ収集の援助を得た。ハングル版への翻案は、全面的に本学の元教授の蔡 勝錫先生にお願いした。深く感謝したい。また一緒に調査活動を展開したゼミの学生諸君にも、末尾ながら謝辞を述べたい。

付表 調査票

- ① 88 年調査票 ② 92 年調査票
- ③ 96 年調査票 ④ 2000 年調査票
- ⑤ 04 年調査票 ⑥ 簡便版(日本)
- ⑦簡便版 (アメリカ) ⑧簡便版 (韓国)

① 88 年調査表

学生アルバイトについてのアンケート

この調査は大学生のアルバイトの実態と意識とを調べようとするものです。ゼミ活動の一環として 実施し、結果はいずれ公表していく予定です。よろしくご協力のほどお願いします。

東京経済大学・三井ゼミ

7	アルバイトの実際についておたずねします。	
Α	今までにアルバイトをしたことがありますか _。	
	1 あ る 2 な い → ②へすすんでください。	
_	ビノカル市も欠略しましまか、日仕めにまばアファノかとい	
В	どんな仕事を経験しましたか。具体的にあげてみてください。 1 () 2 () 3 ()	
	4 () 5 () 6 ()	
C	代表的な職種をあげます。あなたの場合、次のどれに該当しますか。(該当する番号を	○印でか
	こんでください)	
	1 デパート・スーパーなど販売関係 7 家庭教師・塾教師など教育関係	
	2 喫茶店レストランなど対人サービス関係 8 TV・出版・広告などマスコミ	関係
	3 ファーストフードなど外食産業 9 交通量調査・アンケートなど調	查関係
	4 配達・引越しなど運輸配達関係 10 生産工程・土木建設など現場作	業
	5 駐車場・ビル管理など警備保安関係 11 スキー場、遊園地などスポーツ・	余暇関係
	6 一般事務・経理事務など事務関係 12 その他(
)	現在アルバイトをどの程度やっていますか。	
	1 ほぼ毎日やっている 4 必要に応じて随時	
	2 週に何回かやる 5 時たまやる程度	
	3 休みの時、集中的に 6 その他()
	アルバイトによる収入は1ヶ月あたりどの位になりますか。	
	最大()万円 最小()万円 平均()万月	Ŋ
-	アルバイト収入のおもな使いみちは (該当するものに○印)。	
	1 生活費 2 学費 3 サークル費 4 交際費	
	5 趣味・レジャー 6 旅行 7 まとまった買いもの 8 その他	
à	アルバイトからの収入がとだえた時、あなたの生活はどうなると思いますか。	
	1 殆んど影響をうけない 4 生活できなくなる	
	2 多少不自由になる程度 5 その他 ()	
	3 / 学校をつづけるのが困難になる	
1	アルバイトをやっていて「残業してほしい」といわれたことがありますか。	
	1 ある 2 ない	
	- 特別の残業手当て(割りまし)はでましたか。	
	1 はい 2 いいえ 3 やってないので わからない	

2

ı	ŧ	٤٠	・ も最近に経験し	たアルバ	ベイトにつ	ついてお答え	下さい。			
			仕事の内容につ							
			んな仕事でした)
	(2)	仕	事の期間は	•••••••	•••••	()日間		
	(3)	拘束	束時間は			()時間		
	(4)	勤狠	烙時間帯は (該	当する社	番号に○□	印)				
		1	朝・午前型	2	午前・	F後型	3 午後雲	型		
		4	夜型	5	深夜型		6 そのf	也 ()
	(5)	賃金	金は				·時給() 円	
	ı — 2	F	畿場について							
	(1)	正规	見の社員以外に	どんなん	人が働い"	ていましたか	*(該当する	る番号に()卸)。	
		1	パート・タイ	マー	2	派遣労働者	ŕ	3	出向者	
		4	出稼労働者		5	大学生		6	高校生	
		7	高校中退生		8	浪人生		9	大卒バイト生	
		10	外国人労働者	•	11	正規の社員	のみ	12	その他()
	(2)	— *	者に働いている	人たちと	と話をしる	ましたか。				
		1	よく話をした			4	話す機会	会がなかっ	った	
		2	時々、話をし	た		5	その他	()
		3	殆んど話をし	なかった	2					
	(3)	1 5 8	TV・ラジオ	2 の話 9	趣味の記 6 スポ 政治・編	舌 3. ピーツ・余暇 圣済の話	学校・勉引 の話	鱼の話 7 ファッ	4 世間の出 バション・買いも 舌 11 郷里の	のの話
	(4)	40	の職場には労働	組合がは	ありましれ	こか 。				
		1	あった		2 なた	かった		3 わから	ない	
		,,,,	トの印象や意見 イトときいて連 .(-		ょてください	. 。		
K	アル	,, <u>`</u> ,	イトについて、	かきかり	ナの文章が	があります 。	例にならっ	って補って	こみてください。	
	例	旅ん	こでるとき、私	は あれ	これ行行	先地のことを	:思う			
	(1)	アノ	レバイトをする	理由は、	といえに	Ĭ				
	(2)	アノ	レバイトをして	思うこと	とは、					
	(3)									
	(4)									
	,									
	(3)	, ,	レハ・イトル・から	۷٠						

L	学生がアルバイトをすることについてどう思いますか。以下の中からあなたの気持に一番近し
	ものを選んでみてください(該当する番号に○印)。
	1 良いとか悪い以前に、やらざるを得ない。
	2 プラス面が多い、積極的にやるべきだ。
	3 やるのも良いが、限度をわきまえるべきだ。
	4 マイナス面が多い、できるならやらない方が良い。
	5 学生の本分は勉強だ、やるべきでない。
	ΣΕΔ
M	学生アルバイトが「社会的にはたしている役割」ということについて考えたことがありますか。
	1 よくある 2 時々ある 3 あまりない 4 全くない
N	「アルバイト学生がいなかったら、企業はどうなるだろう」などと考えてみたことはありますか
	1 よくある 2 時々ある 3 あまりない 4 全くない
0	「アルバイト学生はもっと労働者としての意識をもつべきだ」との意見に対して、あなたはどう
	思いますか。
	1 全くその通り 2 かなり 3 あまり 4 全然
	だと思う そう思う そう思わない そう思わない
Р	「労働基準法」ということばを知っていますか。
	1 内容も 2 内容はだいたい 3 ことばは 4 知らない
	よく知っている 知っている きいたことがある
Q	ではアルバイト先で「労働基準法」は守られていると思いますか。
	1 守られていると思う 2 だいたい守られている 3 あまり守られていない
	4 全然守られていない 5 わからない 6 その他(
R	アルバイト学生は次のどれにもっともよく似てると思いますか(該当するものに〇印)。
	1 パート 2 ブルーカラー労働者 3 ホワイトカラー労働者
	4 派遣労働者 5 臨時工・社外工 6 現場主任・監督者
	7 幹部候補生 8 フリー・自由業 9 その他(
s	「卒業してもすぐには就職しないで、アルバイトでもしながら、しばらく生活していきたい」
ی	
	という人がいます。あなたは、この考えをどう思いますか。

➡次ページへ

 1 おおいに共感する
 2 かなり共感するが
 3 あまり
 4 全く

 自分もそうしたい
 そうもいかない
 共感しない
 共感しない

3

1 はい

T 学生アルバイトの仕事はどんな仕事だと思いますか。(該当する目盛りに○印)

全項目にお答えください	全く そのとおり	かなり そう思う	あまり そう思わない	全然そう思わなり
学校で学んだことがいかせる	L			
特別の知識や技能を要しない				
将来の職業選択に役立つ			L	
人件費の割安な労働力である				
学校の勉強を補強する			L	
自立への貴重なステップである	L		1	
きめられたことだけをやればよい	L	1	1	
自分をきたえる良い機会だ	L			
肉体的にはかなりきつい仕事である	L			
人間関係がひろがる仕事である		1		
雇用調節に好都合な労働力である	L		L	
キャリア開発に役立つ	L			
収入を得るための手段にすぎない				
学校の勉強のさまたげになる				
現実の労働への認識がふかまる	L		1	
比較的高収入が期待できる				
責任がなく気楽な仕事である	L			
自分の都合次第の自由な仕事である		L		
あなたご自身について				
(1) もし、高校をでて生活の見通しがたつ	就職が可能だ	としたら、お	なたは大学進学	しましたか
.,	分、大学進学		3 わから	
(2) 学部と学年は(学部() 年	, ,
(3) 性別は1 男	2 女) He /		
(4) 住まいは1 自宅通		下宿	3 寮 4	その他
(5) あなたの 1 ヶ月の生活費は()-	万円		
5) あなたの1ヶ月の生活費は(),	カ円		

* 最後に学生アルバイトについて意見や感想があれば何でも結構です。お聞かせください。

2 いいえ

(6) 家から経済的補助 (送金・給付) をうけていますか。………1 はい 2 いいえ (7) たとえハンディがあっても、それをのりこえるだけの気力が自分にはあると思いますか。

ご協力ありがとうございました。

3 わからない

② 92 年調査表

学生アルバイトについてのアンケート

この調査は大学生のアルバイトの実態と意識を調べようとするものです。ゼミ活動の一環として実施し、結果はいずれ公表していく予定です。宜しくご協力の程お願い致します。 (回答は括弧内に記入するか該当する番号を○印で囲むかして下さい)

東京経済大学・三井ゼミ

	<u>მიავიავი ყომიაგი გაიგიაგი გაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგა გაგაგაგა</u>	12828888
Α	今までにアルバイトをしたことがありますか。 1 ある 2 ない → Hへ	
В	どんな仕事を経験しましたか。具体的にあげてみて下さい。 1 () 2 () 3() 4 ()
С	代表的な職種をあげます。あなたの場合、次のどれに該当しますか。 1 スーパーなど販売関係 7 家庭教師・塾教師など教育関係 2 レストランなど対人サービス関係 8 テレビ・出版・広告などマスコミ 3 ファーストフードなど外食関係 9 交通量調査・アンケートなど調査 4 配達引越しなど運輸配達関係 10 工場・土木建設など現場関係 5 駐車場ビル管理など警備保安関係 11 スキー場・遊園地などレジャー関 6 一般事務・経理事務など事務関係 12 その他(関係
D	現在アルバイトをどの程度やっていますか。 1 ほゞ毎日 2 週に3 ~4 回 3 週に1 ~2 回 4 休みの時、集中的に 5 必要に応じて随時 6 時たまやる程度 7 その他	
E	アルバイトによる収入は1 カ月あたりどの位になりますか。 最大() 万円 最小()万円 平均()万円	
F	アルバイト収入の主な使いみちは(該当するものいくつでも○印) 1 生活費 2 学費 3 交際費 4 趣味・レジャー費 5 旅行費用 6 まとまった買物 7 サークル費 8 その他()	
G	アルバイトからの収入がとだえた時、あなたの生活はどうなると思いますか 1 殆ど影響を受けない 2 多少不自由になる 3 学校を続けるのが困難 4 生活できなくなる 5 その他()	。 になる
Н	学生がアルバイトをすることについてどう考えますか。(ひとつだけ○印) 1 積極的にやるべきだ 4 学生の本分は勉強である、やるべ 2 限度をわきまえるべきだ 5 良い悪い以前にやらざるをえない 3 できるならやらないほうがよい	きでない
ı	アルバイトときいてあなたが連想するものを二つあげてみて下さい。 1 () 2()	
J	アルバイト学生は次のどれによく似ていると思いますか。(いくつでも○印 1 パートタイマー 2 プルーカラー労働者 3 ホワイトカラー労働者 4 派遣労働者 5 臨時工・社外工 6 現場主任・監督者 7 フリー・自由業 8 その他()	

	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	!	ど期拘勤 賃正 1 5	ん間束務朝金規パ大	なは時時・よの一学	仕 · 間間午 · 姓卜主	事・ は昔句・ 員って・・ は型・ 以イ	し・・(・外マ	た。・該・に一	か・・当2・ど	(((す午時ん26	る前給な	も・(人派高	の午が遣校	に後 働労生	〇型 い働	印て者)) 3) い	日時円ま	間間 午 し37	後た	型 か出高)。向校	者中	4 :	夜!		出浪	1 稼人	深一	夜	型者	ら 6 み		-	他
L			生	舌 (お お	j i	てし	き : 共	た感	いす	」 る	٤	り自	う	人	が	(\	ま	す た	0 إرا	あ	な 2	た	はか	こな	のきりま	考え	えを	と	うが	思、	(,	ま	自由すか	١,		ţı
M	: : :	思全 学特将人	(\ j	ま目 でのの費	ナこ 学可能の	いお も能能制	(え母こ技択な	該下 と能に労	当さ がを役働	すい 活必立力	る か要つ	目せと	盛るし	りな	のま	数った	字 (そ	にのとり1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・	O 5 b	印 ·	をかり	し りそ	て「 うお! 2 2	下 5 5 4 2 - 2 - 2 -	さ!	らまり) (7)	5 b h	ない ↓ -3 -3	- ti		<i>ኤ</i> ት :	おも	わない ↓ −4 −4 −4		
	1	決自肉	立め分体間	らずい	ひかっと	ここるき	と良い	だい仕	け機事	を会	やだ	れ	ば		ţì			1 - 1 - 1 -					—2 —2	2 -		_			-3 -3 -3					-4 -4 -4		
	1	キ収え	用ャ入校実	リラを発	アドラシ	開発る手	に段妨	役にげ	立すに	つぎな	なる	ţì		る				1 · 1 · 1 ·						2 -					-3 -3 -3	_				-4 -4 -4		
	1	自然	任分会我生	欠気に見	色が見る	り自	由て保	ない障	仕るが	事役な	で割い	あが	る大	き	٤١			1 - 1 - 1 -					—2 —2 —2	2 -					-3 -3 -3	_						
	(1) (2)	j	な所性を	属に	‡ ·		:		:	:	1		男			:	2	下	宿	女 :	3	寮	4	1	そ (のf							• 1	1		

③ 96 年調査表

٤١	学生アルバイトについてのアンケート う調査は大学生のアルバイトの実態と意識を調べようとするものです。ゼミ活動の一環 プで実施し、結果はいずれ公表していく予定です。宜しくご協力の程お願い致します。 回答は該当する番号を○印で囲むか、括弧内に記入するかして下さい。) 東京経済大学・三井ゼミ
9	果只在所入子・二升ビニ
Α	今までにアルバイトをしたことがありますか。 1 ある 2 ない →Mへ
В	どんな仕事を経験しましたか。具体的にあげてみて下さい。 1 () 2 () 3 ()
С	仕事を選ぶとき、どんなことを重視しますか。 (いくつでも○印) 1 時給 2 通勤条件 3 職種 4 資格要件 5 就労時間帯 6 労働時間 7 就労期間 8 人間関係 9 今後の進路 10 その他()
	アルバイトで始めにきいた条件と実際の条件が食い違っていたなどといった経験がありますか。 <u>1 よくある (2)時々ある</u> 3 あまりない 4 全くない ↓ は例などお聞かせ下さい。
Ε	アルバイトをして楽しいことや嬉しいことは何ですか。(いくつでも○印) 1 知識が増える 2 仕事ぶりが認められる 3 友達や恋人ができる 4 お客に感謝される 5 お金が手にはいる 6 達成感が味わえる 7 一人前と認められる 8 楽しいことなどない 9 その他()
F	では逆につらいことや嫌なことは・・・(いくつでも○印) 1 仕事がきつく疲れる 2 おれこれ文句をいわれる 3 仲間とのトラブル 4 お客とのトラブル 5 賃金が安い 6 セクハラや嫌がらせ 7 約束違反がある 8 嫌なことなどない 9 その他()
G	現在アルバイトをどの程度やっていますか。 1 ほゞ毎日 2 週に3 ~4 回 3 週に1 ~2 回 4 休みの時、集中的に 5 必要に応じて随時 6 時たまやる程度 7 その他()
H	アルバイトによる収入は 1 カ月あたりどの位になりますか。 最大()万円 最小()万円 平均()万円
1	アルバイト収入の主な使いみちは(該当するものいくつでも○印) 1 生活費 2 学費 3 交際費 4 趣味・レジャー費 5 旅行費用 6 まとまった買物 7 サークル費 8 その他()
J	アルバイトからの収入がとだえた時、あなたの生活はどうなると思いますか。 1 殆ど影響を受けない 2 多少不自由になる 3 学校を続けるのが困難になる 4 生活できなくなる 5 その他()

◇裏面へ

 K
 アルバイトときいてあなたが連想するものを二つあげてみて下さい。

 1 ()
 2 ()

1 () 2 (

L もっとも最近に経験したアルバイトについてお答え下さい。 (1) どんな仕事でしたか。()	96/10
(2) 期間は(該当する番号を○で囲み、括弧内に数字を記入して下さい。	
1 () 日間 2 () 週間 3 ()カ月 4 (3) 拘束時間は・・・・ () 時間	()年間
(4) 勤務時間帯は(該当するものに○印)	
1 朝・午前型 2 午前・午後型 3 午後型 4 夜型 5 深る (5) 賃金は・・・・・・ 時給()円	反型 6 その他
(6) 交通費の支給は・・ 1 全額支給 2 一部支給 3 交通費	量なし
(7) バイト先の所在地は 1 居住地の近く 2 大学の近く 3 通学を 4 距離的に離れている⇔通勤時間(
(8) 正規の社員以外にどんな人が働いていましたか。	
1 パートタイマー 2 派遣労働者 3 出向者 4	
5 大学生 6 高校生 7 高校中退生 8 9 大卒バイト生 10 外国人労働者 11 その他()
M 「卒業しても、すぐには就職しないでアルバイトでもしながら、しばら	こく白中に
生活していきたい」という人がいます。あなたはこの考えをどう思いま	ミすか。
1 おおいに共感する 2 かなり共感する 3 あまり共感できた 4 全く共感できない 5 その他())
N 学生アルバイトの仕事についていろいろな意見を集めて見ました。ある 思いますか。(該当する目盛りの数字に○印をして下さい。)	にたはどう
全項目にお答え下さい 全くその通り かなりそう思う おまりそう思わない	全然そう思わない
	- 4
特別の知識や技能を必要としない 123	4
人件費の割安な労働力である 12 3 3 学校の勉強を補強する 12 3 3	4 1
決められたことさえやれば良い 123	4
キャリア開発に役立つ 123	4
企業はバイトなしでは立ち行かない 123	4
人間関係が広がる 12 3 3 今後の就職活動とつながる 12 3 3	4
雇用調整に好都合な労働力だ 1――――2 ―――3 ―――	
現実の労働への認識が深まる 1233	1
収入を得る手段にすぎない 123	4
経験が将来就職先で役立つ33	4
社会に果たしている役割が大きい 123	
自分の都合次第の自由な仕事だ 123 自立への貴重なステップである 123	——4 ——4
	-
FS あなたご自身について (1) 所属は・・・・・() 大学 () 学部 () 年	
(2) 住まいは・・・・・1 自宅通学 2 下宿 3 寮 4 その他	
(3) 性別は・・・・・1 男 2 女 ご協力有り難うござ	いました。

4 2000 年調査表

学生アルバイトについてのアンケート

この調査は学生アルバイトの実際と意識を調べようとするものです。ゼミ活動の一環として過去3回、一定の間隔をおいて継続的に実施してきました。今回は4回目の調査となります。結果は葵祭展示などを通してその都度公表してきました。今回もよろしくご回答のほどお願いいたします。

(回答は該当する番号を〇印で囲むか、括弧内に記入するかして下さい。)

東京経済大学 三井ゼミ

Α	今までにアルバイトをしたことがありますか。 1 ある 2 ない →質問Kへ
В	どんな仕事を経験しましたか。(具体的にあげてみて下さい。) 1 () 2 () 3 ()
С	仕事を選ぶとき、どんなことを重視しますか。(いくつでも〇印) 1 時給 2 通勤条件 3 職種 4 資格要件 5 就労時間帝 6 労働時間 7 就労期間 8 人間関係 9 今後の進路 1 0 その他()
D	現在アルバイトをどの程度やっていますか。(番号に〇印)1 ほぼ毎日2 週に3~4回3 週に1~2回4 休みの時、集中的に5 必要に応じて随時6 時たまやる程度7 その他()
E	アルバイトによる収入は1ヶ月あたりどの位になりますか。(大体の金額をお答え下さい) 最大()万円 最小()万円 平均()万円
F	アルバイト収入の主な使いみちは… (いくつでも〇印) 1 生活費 2 学費 3 交際費 4 趣味・レジャー費 5 旅行費用 6 まとまった買い物 7 サークル関係 8 その他()
G	アルバイトからの収入がとだえた時、あなたの生活はどうなると思いますか。(番号に〇印) 1 殆ど影響を受けない 2 多少不自由になる 3 学校を続けるのが困難になる 4 生活できなくなる 5 その他()
Н	最近、「アルバイトが見つけにくくなった」などという声をききます。 あなたの実感では如何ですか。(番号に〇印) 1 全く同感 2 かなりそうだ 3 あまり変化は感じない 4 見つけにくいとは思わない 5 仕事による 6 その他()
	SQ (「見つけにくい」と感じた方に) 具体例などあればお聞かせ下さい。
I	ご承知のように企業では「リストラ」が広がっています。アルバイトをしていて、そうした「リストラ」の影響を感じることがありますか。(番号に○印) 1 強く感じる 2 かなり感じる 3 あまり感じない 4 全然感じない ↓ SQ 例えば、どんなことですか。

O AX CAXALINEMA CICI TOTAL I TICL	いてお答えて	下さい。			
(5) 賃金は 時給((6) その仕事への就労経路は1 募集をみて(飛び込み)	世み、括弧内 () 適間 時間 午前・午後型 深夜型) 円 (番号に〇印) 2 友人	3 (型 3 ⁴ 6 ² 条件差の差があ ・知人の紹介)ヶ月 午後型 その他(5る場合⇒(3 家族・	・親戚の紹介)
4 バイト情報誌 K 「卒業しても、すぐには就職せて という人がいます。あなたはこの	ドにアルバイト		ばらく自由	に生活して	
大いに共感 かなり					
↓ ↓ ↓ 男性の場合 1 2- 女性の場合 1 2-		34-		5 ()
L フリーターで働く人が増えていま 思いますか。あなたの考えをお問			:てフリータ	ーを選ぶ理	由を何だと
M 学生アルバイトについて色々な意	目を集めて目	ョキレた ちたた	ヘー辛ョー	- /計ルサマロ	サムーへつ
全項目にお答え下さい	その通り かなり	0そう思う あまりそ	う思わない	全然そう思われ	
全項目にお答え下さい 全くる 学校で学んだことが活かせる	その通り かなり 1	りそう思う あまりそ 2	う思わない -3	全然そう思われ 4	
全項目にお答え下さい 全<そ 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない	その通り かなり 1	0そう思う あまりそ 2	う思わない -3	全然そう思われ 4 4	
全項目にお答え下さい 全くる 学校で学んだことが活かせる	その通り かなり 1 1	りそう思う あまりそ 2	う思わない -3 -3	全然そう思われ 4 4	
全項目にお答え下さい 全くる 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ	その通り かなり 1 1	0そう思う あまりそ 2	う思わない -3 -3	全然そう思われ 4 4	
全項目にお答え下さい 全くる 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 2 2 2 2 2	う思わない -3 -3 -3	全然そう思われ 4 4 4	
全項目にお答え下さい 全くる 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する	たの通り かなり 1	のそう思う あまのそ 2 2 2 2 2	う思わない -3 -3 -3	全然そう思われ 4 4 4	
全項目にお答え下さい 全くで 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する 決められたことさえやれば良い キャリア関発に役立つ	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3 -3 -3 -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くる 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する 決められたことさえやれば良い	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3 -3 -3 -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する 決められたことさえやれば良い キャリア開発に役立つ 企業はバイトなしではやっていけない	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 2 2 2 2 2 2 2 2	う思わない -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する 決められたことさえやれば良い キャリア開発に役立つ 企業はバイトなしではやっていけない 自分を鍛える良い機会だ	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 2 2 2 2 2 2 2 2	う思わない -3	全然ぞう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで学校で学んだことが活かせる特別の知識や技能を必要としない将来の職業選択に役立つ人件費の割安な労働力である学校の勉強を補強する決められたことさえやれば良いキャリア開発に役立つ企業はバイトなしではやっていけない自分を鍛える良い機会だ人間関係がひろがる	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3 -3 -3 -3 -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで学校で学んだことが活かせる特別の知識や技能を必要としない将来の職業選択に役立つ人件費の割安な労働力である学校の勉強を補強する決められたことさえやれば良いキャリア開発に役立つ企業はバイトなしではやっていけない自分を鍛える良い機会だ人間関係がひろがる今後の就職活動につながる	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで学校で学んだことが活かせる特別の知識や技能を必要としない将来の職業選択に役立つ人件費の割安な労働力である学校の勉強を補強する決められたことさえやれば良いキャリア開発に役立つ企業はバイトなしではやっていけない自分を鍛える良い機会だ人間関係がひろがる	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで学校で学んだことが活かせる特別の知識や技能を必要としない将来の職業選択に役立つ人件費の割安な労働力である学校の勉強を補強する決められたことさえやれば良いキャリア開発に役立つ企業はバイトなしではやっていけない自分を鍛える良い機会だ人間関係がひろがる今後の就職活動につながる雇用調整に好都合な労働力だ	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する 決められたことさえやれば良い キャリア開発に役立つ 企業はバイトなしではやっていけない 自分を鍛える良い機会だ 人間関係がひろがる 今後の就職活動につながる 雇用調整に好都合な労働力だ 現実の労働への認識が深まる	たの通り かなり 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで学校で学んだことが活かせる特別の知識や技能を必要としない将来の職業選択に役立つ人件費の割安な労働力である学校の勉強を補強する決められたことさえやれば良いキャリア開発に役立つ企業はバイトなしではやっていけない自分を鍛える良い機会だ人間関係がひろがる今後の就職活動につながる雇用調整に好都合な労働力だ現実の労働への認識が深まる収入を得る手段にすぎない	1	のそう思う あまりそ -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2	う思わない -3	全然そう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで 学校で学んだことが活かせる 特別の知識や技能を必要としない 将来の職業選択に役立つ 人件費の割安な労働力である 学校の勉強を補強する 決められたことさえやれば良い キャリア開発に役立つ 企業はバイトなしではやっていけない 自分を鍛える良い機会だ 人間関係がひろがる 今後の就職活動につながる 雇用調整に好都合な労働力だ 現実の労働への認識が深まる	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	のそう思う あまりそ 	う思わない -3	全然ぞう思われ 	
全項目にお答え下さい 全くで学校で学んだことが活かせる特別の知識や技能を必要としない将来の職業選択に役立つ人件費の割安な労働力である学校の勉強を補強する決められたことさえやれば良いキャリア開発に役立つ企業はバイトなしではやっていけない自分を鍛える良い機会だ人間関係がひろがる今後の就職活動につながる雇用調整に好都合な労働力だ現実の労働への認識が深まる収入を得る手段にすぎない経験が将来に役立つ	での通り かなり 1	のそう思う あまりそ - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2	う思わない -3	全然そう思われ 	

⑤ 04 年調査表

学生アルバイトについてのアンケート

この調査は学生アルバイトの実際と意識を調べようとするものです。ゼミ活動の一環として過去4回、一定の間隔をおいて継続的に実施してきました。今回は5回目の調査となります。結果は**禁祭展示などを通してその都度公表してきました。今回もよろしくご回答のほどお願いいたします。**

東京経済大学 三井ゼミ

Α	今までにアルバイトをしたことがありますか。(番号に○印) 1 ある 2 ない → 質問 Iへ	
В	どんな仕事を経験しましたか。 (具体的にあげてみて下さい。) 1 () 2 () 3 ()	
С	仕事を選ぶとき、どんなことを重視しますか。(いくつでも〇印) 1 時給 2 通勤条件 3 職種 4 資格要件 5 就労時間帝 6 労働時間 7 就労期間 8 人間関係 9 今後の進路 10 その他()
D	現在アルバイトをどの程度やっていますか。(番号に〇印) 1 ほぼ毎日 2 週に3~4回 3 週に1~2回 4 休みの時、集中的に 5 必要に応じて随時 6 時たまやる程度 7 その他()	
E	アルバイトによる収入は1ヶ月あたりどの位になりますか。(大体の金額をお答え下さい) 最大()万円 最小()万円 平均(
F	アルバイト収入の主な使いみちは… (いくつでも〇日) 1 生活費 2 学費 3 交際費 4 趣味・レジャー費 5 旅行費用 6 まとまった買い物 7 サークル関係 8 その他()
G	アルバイトからの収入がとだえた時、あなたの生活はどうなると思いますか。(番号にC 1 殆ど影響を受けない 2 多少不自由になる 3 学校を続けるのが困難になる 4 生活できなくなる 5 その他()	OED)
Н	畏も最近経験したアルバイトについてお答え下さい。	
	(1) どんな仕事ですか。 () (2) 期間は(該当する番号を〇で囲み、括弧内に数字を記入して下さい) 1 () 日間 2 ()週間 3 ()ヶ月 4 () (3) 拘束時間は… ()時間 (4) 勤務時間帯は、番号に〇印)	年
	(4) 到扱い間には、留当にしまり 1 朝・午前型 2 午前・午後型 3 午後型 4 夜型 5 深夜型 6 その他((5) 賃金は 時給()円)
ı	アルバイトとインターンシップについてお響ねします。	
-	1) インターンシップに関心がありますか。(番号に〇印) 1 非常にある 2 かなりある 3 あまりない 4 全くない	
(2	2) インターンシップとアルバイトの違いは何だと思いますか。	

裏面へ⇒

J アルバイト経験を大学の単位として認めるという考え方についてどう思いますか。(番号に〇印) 1 賛成 2 かなり賛成 3 何ともいえない 4 あまり賛成できない 5 反対
SQ その際、単位付与の条件として大事だと思うものは何ですか。(いくつでも〇印) 1 一定期間の継続 2 アルバイト内容の限定 3 作業内容の研究報告 4 作業日記の提出 5 業界研究のレポート提出 6 進路選択との関連づけ 7 労働心理の考察 8 販売戦略研究のレポート提出 9 大学学習との関連付け 10 その他())
 K 学校を卒業しても、正規に就職せずフリーターで働く人が増えています。 (1) あなた自身がフリーターになる可能性については、今、どう考えますか。(番号に○印) 1 十分ある 2 かなりある 3 何ともいえない 4 ない 5 わからない 可能性は () %位 (2) フリーターになることについては、どう思いますか。(番号に○印) 1 総対さけたい 2 出きればさけたい 3 やむを得ない 4 フリーターもひとつの働き方だ
** SQ フリーターにならないためには、何が必要だと思いますか。(いくつでも〇日) 1 早期の湖聡活動開始 2 資格の取得 3 学力・専門的知識の向上 4 目標の明確化 5 業界・企業研究 6 自己理解を深める 7 自己アピールの強化 8 意識的キャリア開発 9 インターシップへの参加 10 働くことの自覚化 11 その他()
上 学生アルバイトについて色々な意見を集めて見ました。あなたのご意見は (該当する目盛りに○印) 全項目にお答え下さい 全くその適り かなりそう思う あまりそう思わない 全然そう思わない
学校で学んだことが活かせる 1
学校の勉強を補強する 1
自分を鍛える良い機会だ 1
現実の労働への認識が深まる 1
FS 最後に、あなたご自身について(番号に〇印)
(1) 所属は 1 大学()年()学部 2 社会人 (2) 住まいは 1 自宅通学 2 アパート・マンション 3 下宿・寮 4その他 (3) 性別は 1 男 2 女 ご協力有り難うございました。

⑥簡便版(日本)

学生アルバイトについてのアンケート

この調査は大学生のアルバイトの実態と意識を調べようとするものです。ゼミ活動の一環 として実施し、結果はいずれ公表していく予定です。宜しくご協力の程お願い致します。

	(回答は括弧内に記入するか該当する番号を○印で囲むかして下さい)
	東京経済大学・三井ゼミ
	<u>აგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგაგ</u>
1	今までにアルバイトをしたことがありますか。
	1 ba 2 to → 4 ~
2	どんな仕事を経験しましたか。具体的にあげてみて下さい。
	1 () 2 () 3 () 4 ()
3	アルバイト収入のおもな使いみちは(該当するものいくつでも〇印)
	1 生活費 2 学費 3 交際費 4 趣味・レジャー費 5 旅行費用
	6 まとまった買物 7 その他()
4	学生がアルバイトをすることについてどう考えますか。(ひとつだけ○印)
-	1 プラス面が多い、積極的にやるべきだ
	2 やるのもよいが限度をわきまえるべきだ
	3 マイナス面が多い、できるならやらないほうがよい
	4 学生の本分は勉強である、やるべきでない
	5 良い、悪い以前に、やらざるをえない
5	「卒業してもすぐには就職しないでアルバイトでもしながら、しばらく自由に生活
	していきたい」という人がいます。あなたはこの考えをどう思いますか。
	1 おおいに共感する 自分もそうしたい
	2 かなり共感するが、そうもいかない
	3 あまり共感しない
	4 全く共感しない

(1)

裏面へ⇨

6 学生アルバイトの仕事について、いろいろな意見を集めてみました。あなたはどう 思いますか。(該当する目盛りに〇印をしてください。)

	まったくそのとうり	かなりそうおもう	あまりそうおもわない	ぜんぜんそうおもわない
学校で学んだことが活かせる	1	2	3	4
特別の知識や技能を要しない	1	2	3	4
将来の職業選択に役立つ	1	2	3	4
人件費の割安な労働力である	1	2	3	4
学校の勉強を補強する	1	2	3	4
自立への貴重なステップである	1	2	3	4
決められたことだけをやればよい	1	2	3	4
自分を鍛えるよい機会だ	1	2	3	4
肉体的にきつい仕事が多い	1	2	3	4
人間関係が広がる	1	2	3	4
雇用調節に好都合な労働力だ	1 —	2	3	4
キャリア開発に役立つ	1	2	3	4
収入をえる手段にすぎない	1	2	3	4
学校の勉強の妨げになる	1	2	3	4
現実の労働への認識が深まる	1	2	3	4
責任がなく気楽な仕事が多い	1	2	3	4
自分の都合次第の自由な仕事である	3 1	2	3	4
高収入が期待できる	1	2	3	4
社会に果たしている役割が大きい	1	2	3	4
学生アルバイトは企業を支えている	i 1	2	3	4
7 あなたご自身について				
(1) 学部と学年は・・・・・()学	部 () 4	F
(2) 性別は・・・・・・1	男	2 女		
	(2)	ごま	協力有り難うこ	ございました

⑦簡便版 (アメリカ)

QUESTIONVAIRE FOR COLLEGE STUDENTS WORKING PART TIME

You, and students in several other countries, are asked to answer questions about your attitudes toward college students working part time. Your responses will be compared to those of students in other contories.

Your participation in this international study is greatly appreciated

29	<u>ਫ਼</u>
1	Have you ever worked part time while in college? \square_1 yes \square_2 No (\Rightarrow go to question 4)
2	Please indicate the type(s) of part time jobs you have had. Be specific, for example if you were a waiter or waitress, write waiter/waitress in the space provided.
	1)
3	Please indicate for what purposes you spent the money earned from your part time job.
	(check all that apply) □ Living expenses □ Hobbies/Leisure □ College tuition and fees □ Travel □ Entertainment □ Buying expensive items (e.gcomputers.automobiles) □ Others(Please specify)
4	How do you feel about college students working part time? (check the choice most closely expressing you feelings) 1 It's a good idea. 1 It's good, however, too much is bad. 1 It takes time away from studies. 1 It think it's bad, however, I do it to pay college expenses.
5	"After graduation, rather than full time, I will work part time and have more free time." Check the choice most closely expressing your feelings about this statement.
	☐₂ I somewhat agree, but plan to work full time after graduation. ☐₃ I somewhat disagree. ☐₄ I strongly disagree.

6 Below are 20 statements about college student employment. After each statement, check the choice most closely expressing your feelings. 1=Strongly agree. 2= Agree. 3= Don't agree. 4= Strongly disagree. 2 3 4 T T T T ① I can apply what I learn at school at my job. ② Special knowledge or skills are not needed for part time work. (3) Part time work helps one's career selection. 4 Students are paid less than non-students for part time employment. (5) Part time job experience is helpful for one's academic studies. 6) Part time employment makes one more self dependent. 7 Part time jobs do not require important decision making. (8) Part time jobs require self discipline. Part time jobs require physical labor. @ Part time jobs improve one's human relations skills. (I) Companies use part time student jobs to adjust their labor needs. ② Part time jobs are helpful to develop one's professional skills. 3 part time jobs are only good for earning money. Part time jobs interfere with studies. ⓑ Part time jobs provide an understanding of what "work" is really like. □'□'□'□'□' Lr Ls L3 Lr (B) Many part time jobs are easy and do not have responsibilities. (1) With a part time job one can work when they like. (18) Part time jobs pay high wages. (1) Part time jobs help one to contribute to society. Li Ls L3 L4 @ Part time student jobs are an important labor source for companies. 7 Please answer the following questions about yourself: 1. What is your your college major: 2. What is your student classification: ☐ Freshman □₂ Sophomore □₃ Junior □ Senior 3. Are you a full or part time student: ☐ Full time Part time 4. What is your sex: □ Male Female 5. What is your age :

⑦簡便版(韓国)

학생 아르바이트에 관한 앙케트

이 조사는 대학생의 아르바이트의 실태와 의식을 조사해서 그 결과를 국제적으로 비교해 보려는 것입니다. 귀하의 협조를 부탁드립니다.

東京経済大学 教授 三井大相

1	지금까지 아르바이트를 한 일이 있습니까 ? 1 있음 2 없음 → 4 로
2	무슨 아르바이트를 하셨는지 구체적으로 말씀해 주십시오. 1 () 2 () 3 () 4 ()
3	아르바이트 수입의 주된 용도는(해당되는 것은 몇개라도 〇표) 1 생활비 2 학비 3 교제비 4 취미·레저비용 5 여행비용 6 물품구입 7 기타
4	학생이 아르바이트를 하는 것에 대해서 어떻게 생각하십니까 ?(하나만 ○표) 1 플러스 되는 점이 많다. 적극적으로 해야 된다. 2 하는 것도 좋으나 정도껏 해야 한다. 3 마이너스 되는 점이 많다. 될 수 있으면 안하는 것이 좋다. 4 학생의 본분은 공부다. 해서는 안 된다. 5 좋다 나쁘다 하기 전에 아르바이트를 하지 않을 수 없다.
5	「졸업해도 바로 취직하지 않고 아르바이트라도 하면서 당분간 자유롭게 생활하고 싶다」는 사람이 있습니다. 귀하는 이런 생각을 어떻게 생각하십니까? 1 전적으로 공감한다. 나도 그러고 싶다. 2 상당히 공감하지만 그럴 수도 없다. 3 그다지 공감하지 않는다. 4 전혀 공감하지 않는다.

6 학생 아르바이트에 관하여 여러가지 의견을 모아 보았습니다. 귀하는 어떻게 생각 하십니까?(해당되는 □속에 レ표)

	전적으로 그렇게 생각한다	상당히 그렇게 생각한다	그다지 그렇게 생각하지 않는	전혀 그렇게 다 생각하지 않는다
학교에서 배운것을 활용할 수 있다.				
특별한 지식이나 기능이 필요치 않다.				
장래의 직업 선택에 도움이 된다.				
인건비가 비교적 싼 노동력이다.				
학교 공부를 보강한다.				
자립에의 귀중한 스텝이다.				
정해진 일만 하면 된다.				
자신을 단련하는 좋은 기회다.				
육체적으로 힘든 일이 많다.				
인간 관계가 넓어진다.				
고용조절에 안성맞춤인 노동력이다.				
경력 개발에 도움이 된다.				
수입을 위한 수단에 불과하다.				
학교 공부에 지장이 된다.				
현실의 노동에의 인식이 깊어진다.				
책임이 없고 마음 편한 일이 많다.				
자기 사정 여하에 따른 자유로운 일이다.				
고수입이 기대된다.				
사회에 이바지하고 있는 역할이 크다.				
학생 아르바이트는 기업을 지탱한다.				
7 귀하자신에 관하여				
(1) 학부과 학년은1 이공계 대학	2 인문 사회	계 대학	()학년
(2) 성별은 1 남 2 여				
		-1	*	1-1.1-1

협조해 주셔서 감사합니다.